聖經全書舊約之部第一章

第一章 アブラハムの子なるダビデの子イエス、キリストの系圖

一 二 アブラハム、イサクを生イサク、ヤコブを生ヤコブ、ユダとその兄弟を生リ

三 ユダ、タマルに由てパレスとザラを生パレス、エスロンを生エスロン、アラ

四 ムを生アラム、アミナダブを生アミナダブ、ナアソンを生ナアソン、サルモ

五 ンを生サルモン、ラハブに由てボアズを生ボアズ、ルツに由てオベデを生オ

六 ベデ、エサイを生エサイ、ダビデ王を生ダビデ王、ウリヤの妻に由て

七 ソロモンを生ソロモン、レハベアムを生レハベアム、アビアを生アビア、ア

八 サを生アサ、ヨサパテを生ヨサパテ、ヨラムを生ヨラム、ウザヤを生ウ

九 ザヤ、ヨタムを生ヨタム、アカズを生アカズ、ヘゼキヤを生ヘゼキヤ、マナ

十 セを生マナセ、アモンを生アモン、ヨシアを生ヨシア、バビロンに徙るる時に

十一 ヨキンを生ヨキン、其兄弟を生バビロンに徙られたる後エコニヤ、シ

十二 アルチエルを生シアルチエル、ゼルバベルを生ゼルバベル、アビウデを生

十三 アビウデ、エ

ベツレヘムの地に生まれ給へり　二　ヘロデ王の時ユダヤのベツレヘムに生れ給しが其とき東の方よりエルサレムに來り　曰けるは猶太人の王として生れ給る者は何處に在すや我われ東の方にて其星を見たれば彼を拜せんとて來れり　三　ヘロデ王これを聞て惱む又エルサレムの民もみな然り　四　凡の祭司の長と民の學者とを集てヘロデ問けるはキリストの生るべき處は何所なるや　五　答けるはユダヤのベツレヘムなり蓋預言者の錄されたる書に　六　ユダヤの地ベツレヘムよ汝はユダヤの諸中にて猶小きものにあらず汝はユダヤの民を牧ぶべき君主の中より出んと云ればなり　七　是に於てヘロデ密に博士等を召集し星の現れし時を詳に問て　八　彼等をベツレヘムに遣さんとして曰けるは往て嬰兒の事を細に尋ねこれに遇ば我に告よ我しるしゆきて拜

九　すべし　かれら王の命を聞て往り時に其の方にて見たりし者かれらに先ち
十　て嬰兒の來所にいたり其上に止りぬ　十　彼等この星を見て甚く喜び　既に
十一　家に入りければ嬰兒の其母マリアと倶に居るを見ひれふして嬰兒を拜し寶の
十二　盒を開て黃金乳香沒藥などの物を獻たり　十二　博士夢にヘロデへ歸るなかれとの
十三　警告を受て他の途より其國に歸れり○　十三　彼等が去るのち主の使ヨセフ
夢に現れて曰けるヘロデ嬰兒を尋て殺んとする故に起て嬰兒と其
母とを携へエゴプトに逃て我が命に告るまで彼處に居れ　十四　ヨセフ
起て夜嬰兒と其母とを携へエゴプトに往　十五　ヘロデの死るまで其所に止れ
り是主の預言者に託て我わが子をエゴプトより召出せりと云給ひしに應せ
ん爲なり　十六　是に於てヘロデ博士に欺かれたるを知り大にいかり人を遣し
て伯士に詐く問たる時を度りベテレヘムと其境の內なる兩歲以下の嬰兒
を盡く殺せり　十七　時に預言者エレミヤの言に　十八　聲ラマに聞あり哭悲み歎くラケル
子に慰を求めず其子ら既に亡ぬるが故なり

殺てヘロデ死しかば主の使者ヨセフの夢にエジプトにて現れ曰けるヘ
二十 起て嬰兒とその母とを携へイスラエルの地にゆけ嬰兒の生命を尋ねし者
二十一 は已に死り　ここに於るヨセフ起て嬰兒と其母とを携へてイスラエルの地に至しが
二十二 アケラオ父ヘロデに代てユダヤの王たりと聞ければ彼處に往ことを懼る
夢に告なりて加里ラヤの内に退　ナザレと云る邑に至りて居り故へ
二十三 ハヤハ人と稱はれと預言者に託て云れたる言に應ぜんがなり

第三章　洗者ヨハネ來りてユダヤの野に宣傳へて曰けるヘ
一 天國へ近けり悔改めよ　是ハ主の道を備へ其路を直くせよと
二 預言者イザヤが言し人なり　其ヨハネハ駱駝の毛衣を身に
三 纏ひ腰に皮帶を束ね蝗と野蜜を食物とせり　時エルサレムと及びユダヤ
四 の全地とヨルダンの四方より人々出てヨハネに就　已が罪を悔あらはし
五 ヨルダンにて彼よりバプテスマを授られたり　パリサイ及サドカイの人々の多く來れるを見て彼等に曰けるヘ
六 蝮の類よ

なんぢらに來んとする怒を避べきことを告しや　然バ悔改に相ふ果を結べよ　爾曾われらが先祖にアブラハム有と云ことを惑ふ勿れ我爾曾に告ん神へ能この石をしてアブラハムの子と爲しめ給ふなり　今や斧を樹の根に置る故に凡て善果を結ざる樹へ斬れて火に投入らるべし　我へ爾曾を悔改させんとて水を以て洗ぶ　然ども我より後に來者は我に勝て能力あり我へ其履を提にも足ず彼は聖靈と火をもて爾曾にバプテスマを授ん　手にへ箕を持て其禾場を掃め穀へ倉に收て其糠へ燒ざる火にて燒べし○　時に イエスヨハネにバプテスマを受んとてガリラヤよりヨルダンに來り給ふ　ヨハネ辭て曰けるへ我へ爾よりバプテスマを受べき者なるに爾反て我に來る乎　イエス答けるへ今汝へ許すべし是に於てヨハネ許せり　イエスバプテスマを受て水より上れるとき天開あるを見たまへり神の靈の鴿の如く降て己に來るを見たり　又天より聲ありて曰へ我愛する子なり我之に悅ぶ

一　聖靈に導かれ荒野に試られんために荒野に往り　二　四十日四十
夜食ふ事なせず後うゑたり　試むる者かれに來りて曰けるは若もし神の
子ならば命じて此石をパンとなれと　イエス答へるは人もパンのみにて活
るものにあらず神の口より出る凡の言に因と錄されたり　是に於て惡魔
かれを聖京に携へゆき殿の頂上に立せて曰けるは　若しも神の子なら
ば己れを投なんぢが爲に神汝の使者に命じん彼等手にて支へ
ん石に觸ざるやうすべしと錄されたり　イエス彼に曰けるは亦か
る事の錄なる試じてからすと錄せり　惡魔また彼を最高き山に携へゆき
世界の諸國とその榮華とを見せて　若もし汝ひれ伏て我を拜せば此等を悉な
んぢに與ふべしと曰　イエス彼に曰けるはサタンよ退け主なる神の錄も
錄し唯之にのみ事ふべしと錄されたり　時に惡魔かれを離れ天使たち來
り事ふ○　イエス、ヤハネの捕られしを聞て　ガリラヤに往　ナザレを去て
カペルナウムとの海邊なる領地のゼブルンとナフタリとに居て　此に居り　これ預

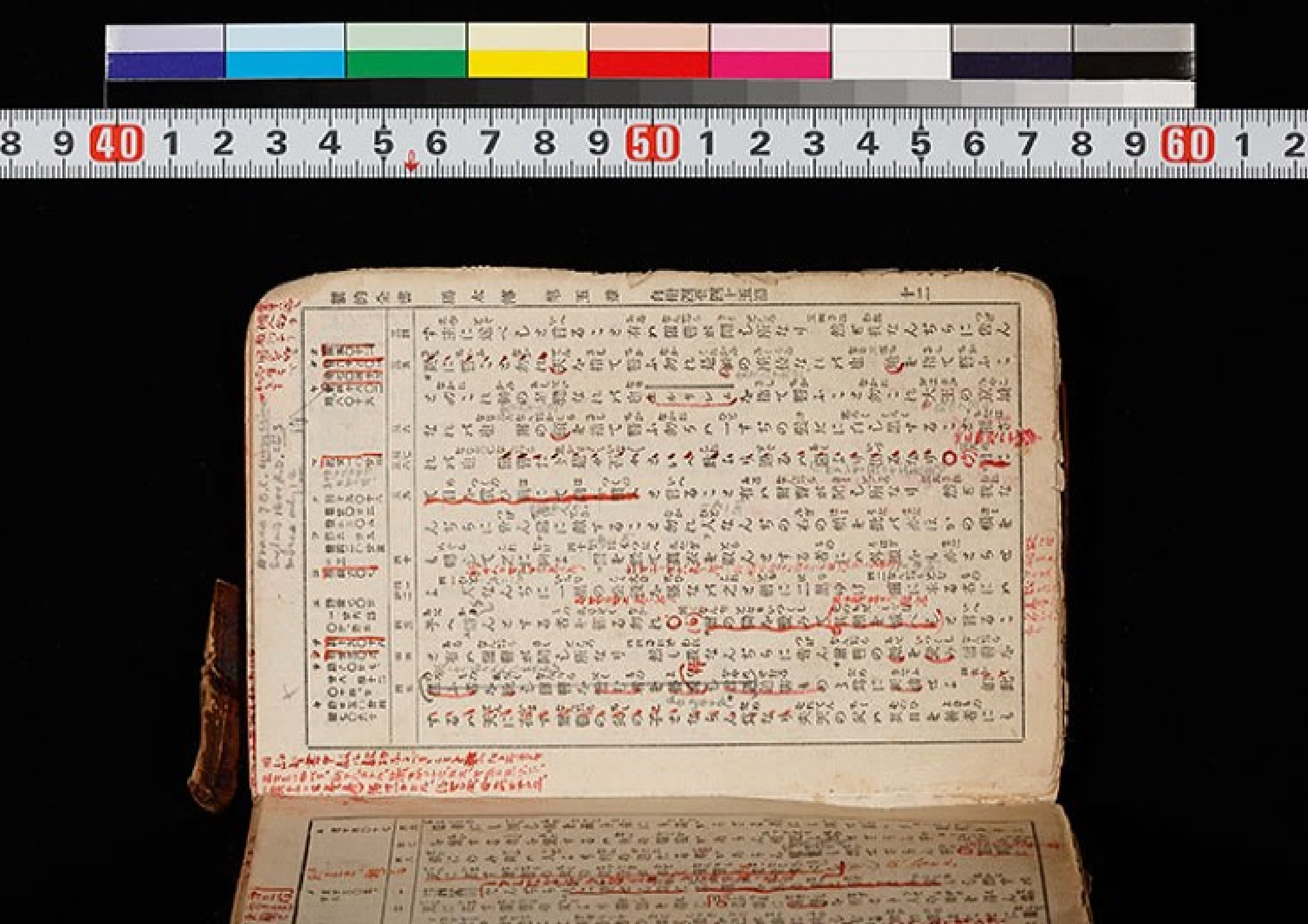
言者イザヤの言に　ヒヅルンの地ゼブルンの地ナフタリの地海に沿たる地ヨルダンの
の地異邦人のガリラヤ　群衆の幽暗にゐる民は大なる光を見
民に坐する者の上に光いでたりと云しに應なんなり○　イエ
ス始て道を宣傳へ天國は近づけり悔改めよと曰たまへり○イエスガリラヤ
の海邊を歩てペテロと云シモンとその兄弟アンデレと二人にて海に網うて
るを見たり彼等は漁者なり　之に曰ひけるは我に從へ汝らを人を漁
る者とせん　彼等やがて網を棄てイエスに從ふ　此より進けるに又ほか
の兄弟二人即ちゼベダイの子ヤコブと其兄弟ヨハネ父ゼベダイと舟に共
にて網を繕へるを見て之を召しに　彼等速に舟と父とを棄てイエスに從
へり○　イエスガリラヤを遍く巡り其會堂にて教をなし天國の福音を宣傳
かつ民の中なる諸の病と諸〳〵の疾を癒せり　その聲名あまねくスリヤに
聞りしが病人やすべての患へる者癲癇の人また癱瘓る者あるひは魔に憑
たるしの癲癇瘋癲の類に患れる者を悉に携來りければ之を癒せり　ガリラ

十とヤコブとヨハネとアンデレとの外より多の人々きたりぬ

一　イエス群衆の人々を見て山に登り坐しけれ
ば弟子もまた其下に來れ
二　り　イエスは口を啓て彼等に教へ曰はく
三　心貧しき者は幸福なり天國は
其人の有なれば也
四　哀しむ者は幸福なり其人は安慰を得べければ也
五　柔和なる者は幸福なり其人は地を嗣ことを得べければ也
六　義を慕ひ渴くごとく義を慕ふ者は幸福なり其人は飽ことを得べければ也
七　憐憫ある者は幸福なり其人は憐憫を得べければ也
八　心の清き者は幸福なり其人は神を見ることを得べければ也
九　和睦を爲る者は幸福なり其人は神の子と稱らるべければ也
十　義のために迫害を受る者は幸福なり天國は即ち其人の有なれば也
十一　我のために人なんじを誹り迫害し
十二　虛偽をいつはりて汝に對ひ惡しき事を言ふ時は幸福なり
喜び躍め天に於て報賞の豫備おほければ也夫汝等より前の預言者を如
此せめたりき
十三　汝等は地の鹽なり鹽もし其味なくなれば何を以て鹽
に成さん復用なし外に棄られて人に踏るゝ迄已
十四　汝等は世の光なり

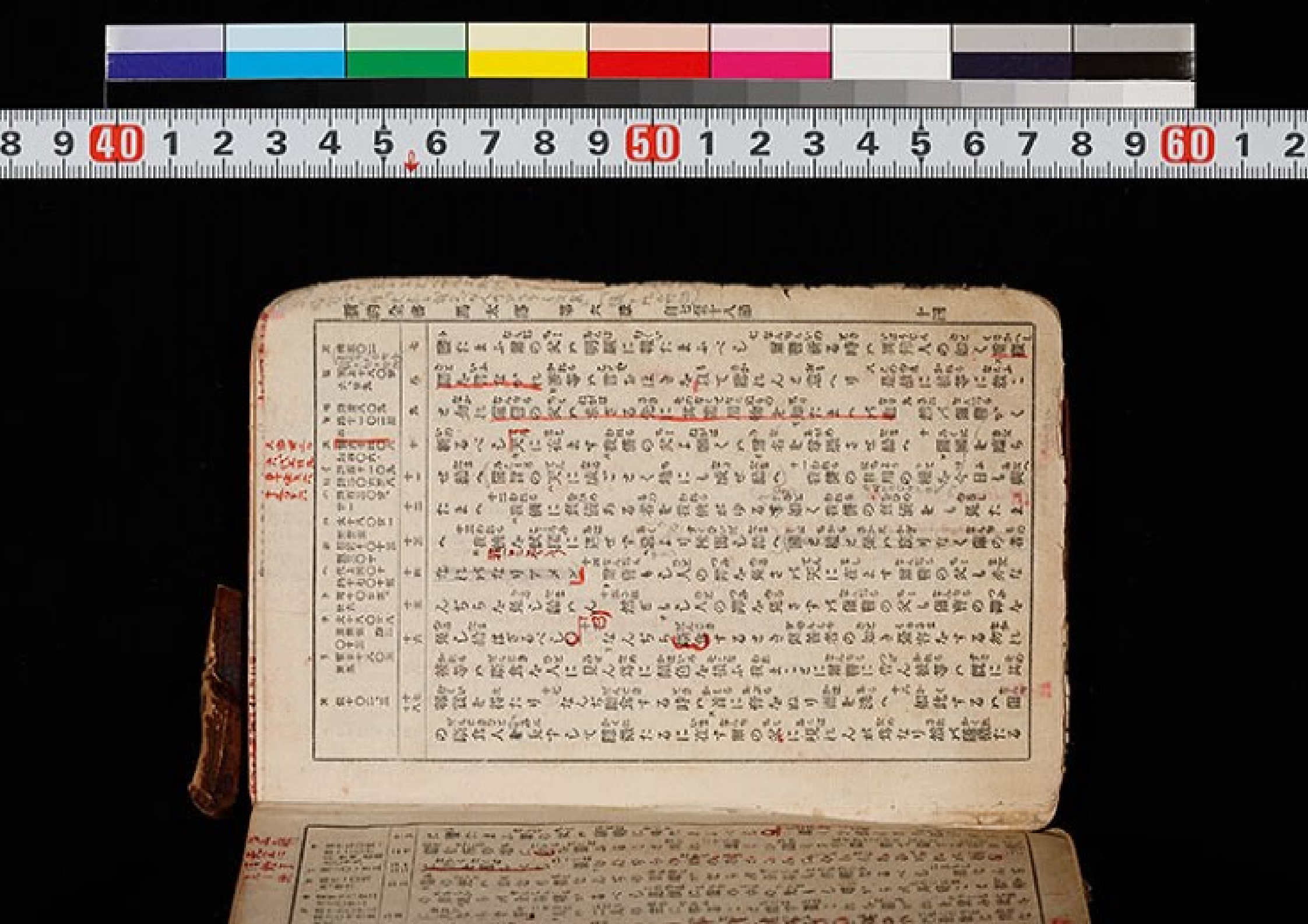
の上に載られたる燈臺に置くことを指す　燈を點して斗の下にかくすなし
十五　燈臺に置て家にあるすべての物を照さん　此の如く人々の前に聖靈の光み
十六　靈かゞ然り人々なんぢらの善行を見て天に在る父を榮めんし
十七　われ律法を破るために來れりと意ふ勿われ來て之を破るに非ず成
十八　就なん爲なり　われ誠に汝に告ん天地の滅ざる中に律法の一點一畫も
滅つくさずして殺ることなし　是故に人もし誡の至微き一を破り又ろの
如く人に教なば天國に於て至微き者と稱れん凡ろ之を行ひ且人に教る者
十九　は天國に於て大なる者と稱るべし　我なんぢらに告ん義人の義
二十　人の義より優れざれば汝ら天國に入ることを得じ　○汝ら古の人に告
て殺ことなかれ殺す者は審判に干らんと雖も所なり
二一　然ども我なんぢらに告ん凡て其兄弟を怒る者は審判に干らん又
二二　なんぢの兄弟を罵ることいふ者は議會に干らん又狂妄といふ者は地獄の火
に干るべし　是の故に汝供物を携へて壇に往たる時かしこにて兄

必に悔るようことあるを恐れさせ　その禮物を壇の前に置いて先づ行て汝の兄
弟と和が解きたりて後に禮物を獻よ」　壇を設ふるにも祭に設置にある時
はやく和げよ惡くへ訟るなんぢを審官に付し審官また獄吏に付し
獄に閉へ獄に入られん　我まことに爾に告ん外面よりも出へされば必ず
其所を出ること能さる也○(4)汝の人に言て曰ふ所あることあ
るへ姦淫を行し所なり　然ど我なんぢらに告ん凡ち婦を見て色情を起す
者へ心中すでに姦淫したる也　もしなんぢの右なんぢを躓かせば抉出し
て之を棄よ　全身の一を失ふへき身を地獄に投入らるるよりへ勝れり
しもなんぢの左なんぢを躓かせば之を斷て棄よ　全身を地獄に投入らるるよりへ勝れり○(5)また曰ることあり凡そ人その妻を
棄んとすれば之に離縁狀を與ふべしと　然ど我爾に告ん淫婦の故にあらで
其妻を出す者へ之に姦淫をさしむるなり又出されたる婦を娶る者も姦淫
を行ふなり○(6)また古の人に言て曰ふ所を立ること勿なんぢ誓ふ所へ必



思るにし思し思を表き者にも表からざるにも隠せ給へり　国豆なのに
な愛する者を愛するへ何の報賞かあらん稅吏もさらん乎　安
のにのみ兄へ人より何の過たる事かあらん異邦もさらん乎○是故に
天に在す汝等の父の完全なるが如く汝等も完全なるべし

一　なんぢら人に見せんとて人の義を行ふな　天に在す汝等の父より報賞を得じ○是故に施を行とき人の前に
二　吹聲するな　偽善者の如く汝等己が身に榮をしむる為に会堂や街衢にて自ら喇叭を吹鳴すなり　誠
三　に汝に告ん彼等の既に己の報賞を得たり　汝施を行とき汝の右の手の為すことを左の手に知せる勿れ
四　如此するは其施の隱れんが為なり然
五　ば隱るるに堪たまふ父の明顯に報たまふべし○なんぢ祈る時に偽善
者の如する勿れ彼等の人に見られんが為に会堂や街衢の角に立て祈ることを好われど誠に汝に告ん彼等の既に己の報賞を得たり　なんぢ祈る時へ
六　密室なる室にいり戸を閉て祈るに在す汝の父に祈れ然れば隱るるに



に蓄たまふ事の父へ說明に現たまふべし。

二十　盜む所の地に

二十一　なんぢらの眼の惡かるときは

二十二　身の光へ日なり若なんぢの目明かならば全身も亦明なるべし若なんぢの目明らかなる時は

二十三　に人ならず。人へ二人の主に仕ること能ず蓋これを惡みて此を愛み此を

二十四　戒み彼を敬へりれば他なんぢ

二十五　んじらに汝んぢの身に何か食ひ何か飲まんと生命の爲に何か身に

二十六　天空の鳥を見よ彼こそなく蒔こともせず倉に蓄ふることもなし然るに

二十七　の父へ之を養ひ給へり汝等之よりし大に勝るまをならずや

二十八　うち誰か能なもひ煩ひて其生命を

二十九　を思わづらふや野の百合花へ如何して長かを思へ勞ず紡がざる由

二十九　に榮たまふ所の父へ說明に現たまふべし。

二十　盜む所の地に

二十一　なんぢらの眼の惡かるときは

二十二　身の光へ日なり若なんぢの目明かならば全身も亦明なるべし若なんぢの目明らかなる時は

二十三　に人ならず。人へ二人の主に仕ること能ず蓋これを惡みて此を愛み此を

二十四　戒み彼を敬へりれば他なんぢ

二十五　んじらに汝んぢの身に何か食ひ何か飲まんと生命の爲に何か身に

二十六　天空の鳥を見よ彼こそなく蒔こともせず倉に蓄ふることもなし然るに

二十七　の父へ之を養ひ給へり汝等之よりし大に勝るまをならずや

二十八　うち誰か能なもひ煩ひて其生命を

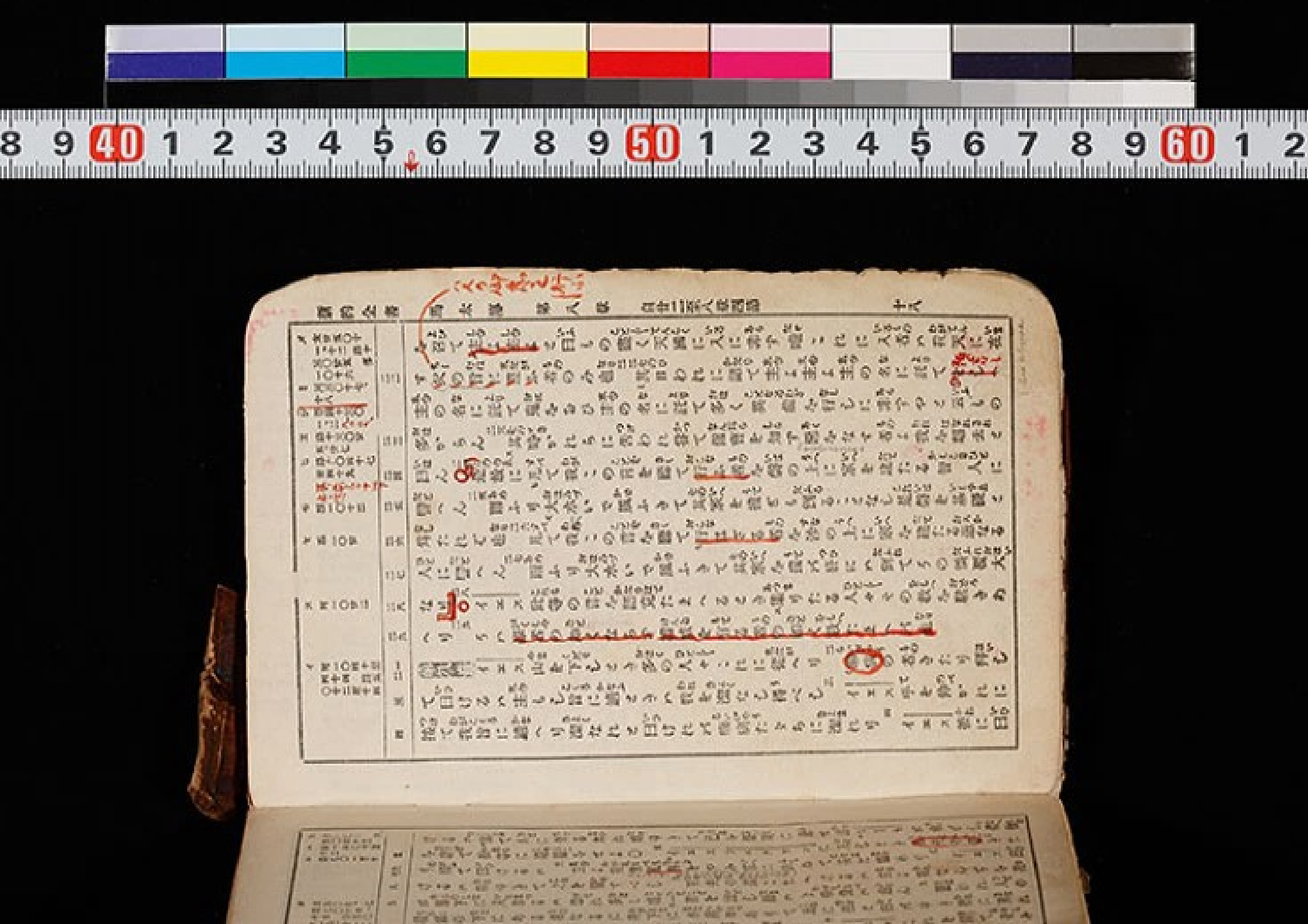
二十九　を思わづらふや野の百合花へ如何して長かを思へ勞ず紡がざる由

[illegible]

[illegible]

[illegible]

に曰ふ門を叩くなれば汝にてこを開ふりかへりて曰ふ
らん○門は既に閉られ戸は牀にあり門を開いるとも我ん
すべてふるるのあひ門を叩くるの開かるべしなり
うち誰か其子パンを乞んに石を与へんや　また魚を乞んに
蛇を与へんや　汝ら惡ながら善物を其子に與ふるを知るとして天に在す父
へ求るものに善物を与ざらんや○是故に凡て人の
汝に為ることを汝人に為ることを願ふなら
にる路へ狹しの門へ大なり由より入るの多し　命に至る路へ狹しの門
へ少し其路を得るもの少なり○凡て偽師を謹めよ彼等へ羊の衣にて
爲なれども内へ狼なり　是らの果に由て知べし　荊棘より葡萄
をとり蒺藜より無花果を採ることをせん　如て善樹へ善果を結び惡樹は惡果
を結べり　善樹へ惡果を結ばず惡樹へ善果を結ぶことを能ざる如
く善樹へ惡果を結ざる惡樹は善果を結ぶことを能ず　凡て
善果を結ざる樹は切て火に投入らる　是故に其果に由て之を知べし○



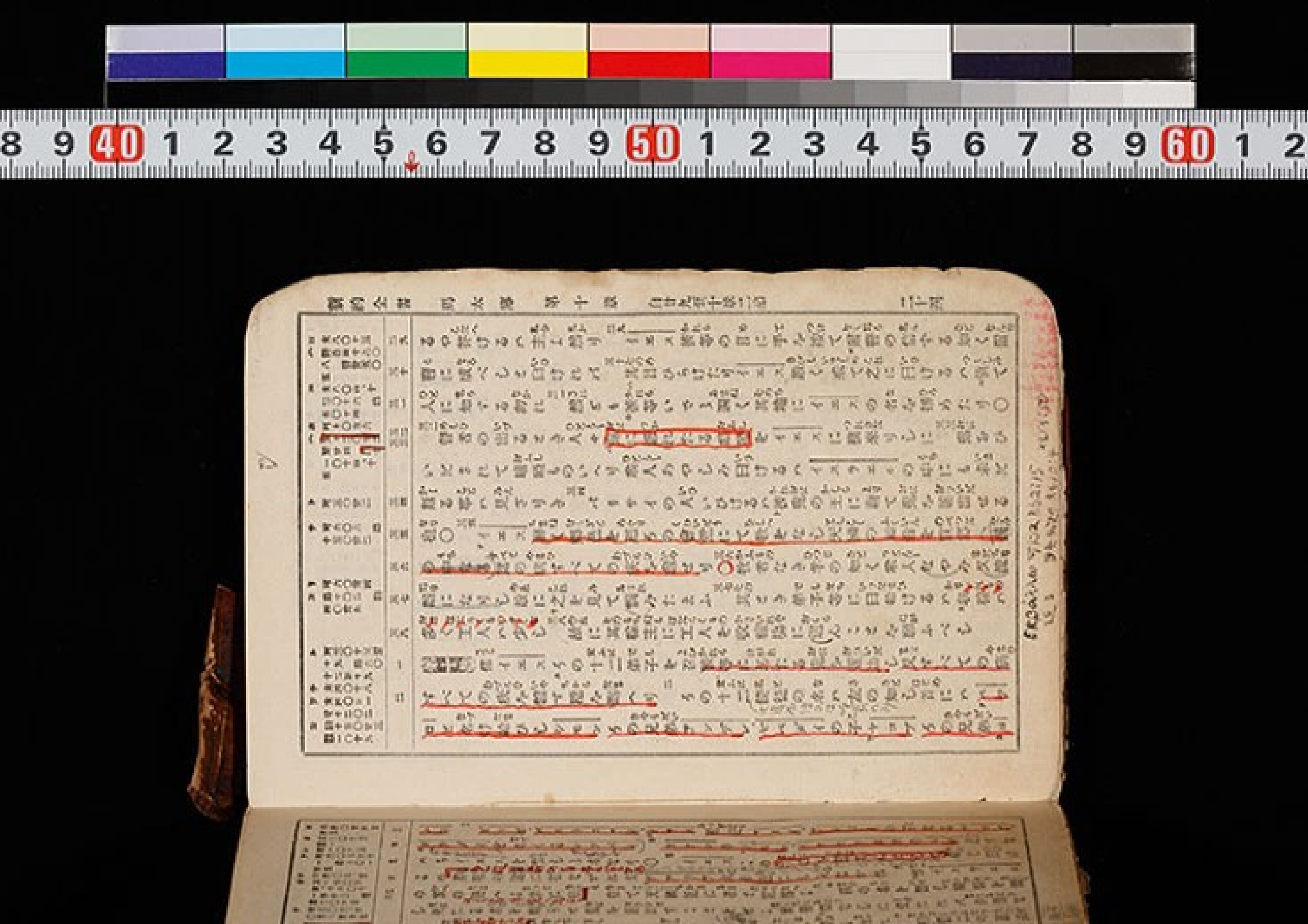
けるへ語て人に告る勿れ唯ゆきて己を祭司に見せ且モーセが命じし贈物を獻て被告に證據なせよ○　イエスカペナウムに入しとき百夫の長きたりて曰けるハ　主よ我僕を中風をやみ家に臥て甚に惱めり　イエス曰けるハ我ゆきて之を醫すべし　百夫の長こたへけるハ主よ我なんぢを我が屋下に入るハ恐れ多し唯一言を出し給へよ我僕ハ癒ん　蓋われ人の權威の下にある者なるに我下に兵卒ありて此に往と曰ハゆき彼に來れと曰ハ來る我僕に此を行と曰ハ則ち行が故なり　イエスこれを聞て奇みて從へる人々に曰けるハ我まことに爾等に告んイスラエルの中にだに未だ此ほど大なる信仰に遇ざる也　われ爾等に告ん多の人々東より西より來てアブラハム・イサク・ヤコブと倶に天國に席し　國の嗣子ハ外の暗黑に逐出され其處にて哭泣と齒ぎしりすることあらん　イエス百人の長に往なんぢが信仰の如く對に成べしと曰ふとへる見時に僕ハ癒たり○　イエスペテロの家に入らの病熱の臥を初ひ臥わたるを見て　その手に問けれハ則ち熱去れり歸る

きに[illegible]のもの殺より出て殺なほふることおしくして其殺を人の殺ることはさりしほど也　がれら時時て曰けるへ"の子イエスよ我勝なんぢと何の関あらん爭いまだ時いたらざるに我勝なんとて其に答るか　鶴はなれて"家の多めむれ食し居ければ　イエスに求て曰けるへ名われらみ出さんとならば家の群に入ことを許せ　彼等に往と曰ければ鬼いでゝ家の群に入しに悪のむれ山坂より逐て海にいり水に死たり　牧者ども色に驚出て針事と見に逃れたりし名の事をかければ　イエスに詣んとて色の名事て出きたり彼を見て"針規なほんことを願へり

[illegible]　イエス舟に登わたりて[illegible]にかければ　[illegible]にて其に訪たる者を人々見來れりイエス彼等が[illegible]するを見て痛疾の者に曰けるへ子よ心安かれ"御の罪赦れたり　ある學者たち心の中に謂けるへ此人へ"冒涜を言り　イエスその意を知て曰けるへ何ぜいかなれば心に惡を謀ふや　汝の罪赦されたりと言と起て歩めと言と孰か易きたれ人の子地にて"罪を赦すの

起あることを聞き知せんとて彼に歸服の者に起て床なとり家に歸れと
日はれば　起て其家に歸りロ　人々これを見て驚み此の如き權を人に賜
し給へるなり○　八　イエス此より進行給ひ　と名くる人の稅關に坐し居け
る を見て我に從へと曰はれば起て從へり　十　イエス彼が家に食するとき稅
吏罪ある人多くきたりてイエスと弟子とに坐しければ　十一　パリサイの
人之を見て其弟子に曰はるゝ　何故稅吏や罪ある人と倶に食
する乎　十二　イエス聞て彼等に曰はるゝ　康強なる者は醫者の助を要す　疾病
ある者これを要　わ　十三　汝等往て此の如何なる意か在
て憐ぶべし矣わが來るゝ義人を招ためにあらず罪ある人を招きて悔改させ
んが爲なり○　其時　十四　ヨハネの弟子イエスに來て曰はるゝ　何故とパリサイ
の人々とは　しかるに　ヨハネの弟子の斷食せざるゝ何故ぞ　十五　イエス彼等に
曰はるゝ　新郎の友らの新郎と倶に居うちは哀むことを得んや新郎奪
ひとらるゝ日きたらん此時には斷食すべき也　新き布を以て舊き衣な

縫ふ者へあらじ蓋つくろふ所のしの反て之を壞ちの瓶び大も其たしから
ん　また新き酒を舊き革囊に盛る者へあらじ若しかせば囊はりさけ酒も
れいでよ其囊し亦壞らん　新き酒を盛たゞ則なから存べし○イエス
エス彼等に此事を語る時ある會堂たり拜して曰けるへ我女いま既に死り
來て彼に手を按たまへ生べし　イエス起て彼に從ひ其弟子も亦に往
二血漏なる婦うしろに來て其衣の緣に觸れり　蓋いも云ふに
曰らば愈んと爲へ內なり　イエスふりかへり婦を見て曰けるへ女よ心安
かれ爾の信仰なんぢを救せり時より婦　イエス宰の家に入し
に笛ふく者および衆の人の喧嘩を見て之に曰けるへ退け女へ死るに非
すたゞ睡たるのみ人ゃイエスを嘲笑ふ　彼等を出しと說いりて其手を執し
に女起たり　この聲名あまねく其地に播り亞　イエス此を決とき二人の
盲目ふたがひて呼いひけるへ〻ダビデの子よ我例を憐み給へ　イエス家に
入しに盲目きたりければ彼等に曰たまひけるへ我この事を行得ると信す



三　[illegible]

四　[illegible]

五　[illegible]

六　[illegible]

七　[illegible]

八　[illegible]

九　[illegible]

十　[illegible]

十一　[illegible]

十二　[illegible]

十三　[illegible]

十四　[illegible]

十五　[illegible]

十六　[illegible]

十七　[illegible]

十八　[illegible]

十九　[illegible]

二十　[illegible]

二十一　[illegible]

二十二　[illegible]

二十三　[illegible]

二十四　[illegible]

二十五　[illegible]

二十六　[illegible]

二十七　[illegible]

二十八　[illegible]

二十九　[illegible]

三十　[illegible]

三十一　[illegible]

三十二　[illegible]

三十三　[illegible]

三十四　[illegible]

三十五　[illegible]

三十六　[illegible]

三十七　[illegible]

三十八　[illegible]

三十九　[illegible]

四十　[illegible]

四十一　[illegible]

四十二　[illegible]

四十三　[illegible]

四十四　[illegible]

四十五　[illegible]

四十六　[illegible]

四十七　[illegible]

四十八　[illegible]

四十九　[illegible]

五十　[illegible]

五十一　[illegible]

五十二　[illegible]

五十三　[illegible]

五十四　[illegible]

五十五　[illegible]

五十六　[illegible]

五十七　[illegible]

五十八　[illegible]

五十九　[illegible]

六十　[illegible]

六十一　[illegible]

六十二　[illegible]

六十三　[illegible]

六十四　[illegible]

六十五　[illegible]

六十六　[illegible]

六十七　[illegible]

六十八　[illegible]

六十九　[illegible]

七十　[illegible]

七十一　[illegible]

七十二　[illegible]

七十三　[illegible]

七十四　[illegible]

七十五　[illegible]

七十六　[illegible]

七十七　[illegible]

七十八　[illegible]

七十九　[illegible]

八十　[illegible]

八十一　[illegible]

八十二　[illegible]

八十三　[illegible]

八十四　[illegible]

八十五　[illegible]

八十六　[illegible]

八十七　[illegible]

八十八　[illegible]

八十九　[illegible]

九十　[illegible]

九十一　[illegible]

九十二　[illegible]

九十三　[illegible]

九十四　[illegible]

九十五　[illegible]

九十六　[illegible]

九十七　[illegible]

九十八　[illegible]

九十九　[illegible]

百　[illegible]

百一　[illegible]

百二　[illegible]

百三　[illegible]

百四　[illegible]

百五　[illegible]

百六　[illegible]

百七　[illegible]

百八　[illegible]

百九　[illegible]

百十　[illegible]

百十一　[illegible]

百十二　[illegible]

百十三　[illegible]

百十四　[illegible]

百十五　[illegible]

百十六　[illegible]

百十七　[illegible]

百十八　[illegible]

百十九　[illegible]

百二十　[illegible]

百二十一　[illegible]

百二十二　[illegible]

百二十三　[illegible]

百二十四　[illegible]

百二十五　[illegible]

百二十六　[illegible]

百二十七　[illegible]

百二十八　[illegible]

百二十九　[illegible]

百三十　[illegible]

百三十一　[illegible]

百三十二　[illegible]

百三十三　[illegible]

百三十四　[illegible]

百三十五　[illegible]

百三十六　[illegible]

百三十七　[illegible]

百三十八　[illegible]

百三十九　[illegible]

百四十　[illegible]

百四十一　[illegible]

百四十二　[illegible]

百四十三　[illegible]

百四十四　[illegible]

百四十五　[illegible]

百四十六　[illegible]

百四十七　[illegible]

百四十八　[illegible]

百四十九　[illegible]

百五十　[illegible]

百五十一　[illegible]

百五十二　[illegible]

百五十三　[illegible]

百五十四　[illegible]

百五十五　[illegible]

百五十六　[illegible]

百五十七　[illegible]

百五十八　[illegible]

百五十九　[illegible]

百六十　[illegible]

百六十一　[illegible]

百六十二　[illegible]

百六十三　[illegible]

百六十四　[illegible]

百六十五　[illegible]

百六十六　[illegible]

百六十七　[illegible]

百六十八　[illegible]

百六十九　[illegible]

百七十　[illegible]

百七十一　[illegible]

百七十二　[illegible]

百七十三　[illegible]

百七十四　[illegible]

百七十五　[illegible]

百七十六　[illegible]

百七十七　[illegible]

百七十八　[illegible]

百七十九　[illegible]

百八十　[illegible]

百八十一　[illegible]

百八十二　[illegible]

百八十三　[illegible]

百八十四　[illegible]

百八十五　[illegible]

百八十六　[illegible]

百八十七　[illegible]

百八十八　[illegible]

百八十九　[illegible]

百九十　[illegible]

百九十一　[illegible]

百九十二　[illegible]

百九十三　[illegible]

百九十四　[illegible]

百九十五　[illegible]

百九十六　[illegible]

百九十七　[illegible]

百九十八　[illegible]

百九十九　[illegible]

二百　[illegible]

二百一　[illegible]

二百二　[illegible]

二百三　[illegible]

二百四　[illegible]

二百五　[illegible]

二百六　[illegible]

二百七　[illegible]

二百八　[illegible]

二百九　[illegible]

二百十　[illegible]

二百十一　[illegible]

二百十二　[illegible]

二百十三　[illegible]

二百十四　[illegible]

二百十五　[illegible]

二百十六　[illegible]

二百十七　[illegible]

二百十八　[illegible]

二百十九　[illegible]

二百二十　[illegible]

二百二十一　[illegible]

二百二十二　[illegible]

二百二十三　[illegible]

二百二十四　[illegible]

二百二十五　[illegible]

二百二十六　[illegible]

二百二十七　[illegible]

二百二十八　[illegible]

二百二十九　[illegible]

二百三十　[illegible]

二百三十一　[illegible]

二百三十二　[illegible]

二百三十三　[illegible]

二百三十四　[illegible]

二百三十五　[illegible]

二百三十六　[illegible]

二百三十七　[illegible]

二百三十八　[illegible]

二百三十九　[illegible]

二百四十　[illegible]

二百四十一　[illegible]

二百四十二　[illegible]

二百四十三　[illegible]

二百四十四　[illegible]

二百四十五　[illegible]

二百四十六　[illegible]

二百四十七　[illegible]

二百四十八　[illegible]

二百四十九　[illegible]

二百五十　[illegible]

二百五十一　[illegible]

二百五十二　[illegible]

二百五十三　[illegible]

二百五十四　[illegible]

二百五十五　[illegible]

二百五十六　[illegible]

二百五十七　[illegible]

二百五十八　[illegible]

二百五十九　[illegible]

二百六十　[illegible]

二百六十一　[illegible]

二百六十二　[illegible]

二百六十三　[illegible]

二百六十四　[illegible]

二百六十五　[illegible]

二百六十六　[illegible]

二百六十七　[illegible]

二百六十八　[illegible]

二百六十九　[illegible]

二百七十　[illegible]

二百七十一　[illegible]

二百七十二　[illegible]

二百七十三　[illegible]

二百七十四　[illegible]

二百七十五　[illegible]

二百七十六　[illegible]

二百七十七　[illegible]

二百七十八　[illegible]

二百七十九　[illegible]

二百八十　[illegible]

二百八十一　[illegible]

二百八十二　[illegible]

二百八十三　[illegible]

二百八十四　[illegible]

二百八十五　[illegible]

二百八十六　[illegible]

二百八十七　[illegible]

二百八十八　[illegible]

二百八十九　[illegible]

二百九十　[illegible]

二百九十一　[illegible]

二百九十二　[illegible]

二百九十三　[illegible]

二百九十四　[illegible]

二百九十五　[illegible]

二百九十六　[illegible]

二百九十七　[illegible]

二百九十八　[illegible]

二百九十九　[illegible]

三百　[illegible]

三百一　[illegible]

三百二　[illegible]

三百三　[illegible]

三百四　[illegible]

三百五　[illegible]

三百六　[illegible]

三百七　[illegible]

三百八　[illegible]

三百九　[illegible]

三百十　[illegible]

三百十一　[illegible]

三百十二　[illegible]

三百十三　[illegible]

三百十四　[illegible]

三百十五　[illegible]

三百十六　[illegible]

三百十七　[illegible]

三百十八　[illegible]

三百十九　[illegible]

三百二十　[illegible]

三百二十一　[illegible]

三百二十二　[illegible]

三百二十三　[illegible]

三百二十四　[illegible]

三百二十五　[illegible]

三百二十六　[illegible]

三百二十七　[illegible]

三百二十八　[illegible]

三百二十九　[illegible]

三百三十　[illegible]

三百三十一　[illegible]

三百三十二　[illegible]

三百三十三　[illegible]

三百三十四　[illegible]

三百三十五　[illegible]

三百三十六　[illegible]

三百三十七　[illegible]

三百三十八　[illegible]

三百三十九　[illegible]

四百　[illegible]

四百一　[illegible]

四百二　[illegible]

四百三　[illegible]

四百四　[illegible]

四百五　[illegible]

四百六　[illegible]

四百七　[illegible]

四百八　[illegible]

四百九　[illegible]

四百十　[illegible]

四百十一　[illegible]

四百十二　[illegible]

四百十三　[illegible]

四百十四　[illegible]

四百十五　[illegible]

四百十六　[illegible]

四百十七　[illegible]

四百十八　[illegible]

四百十九　[illegible]

四百二十　[illegible]

四百二十一　[illegible]

四百二十二　[illegible]

四百二十三　[illegible]

四百二十四　[illegible]

四百二十五　[illegible]

四百二十六　[illegible]

四百二十七　[illegible]

四百二十八　[illegible]

四百二十九　[illegible]

四百三十　[illegible]

四百三十一　[illegible]

四百三十二　[illegible]

四百三十三　[illegible]

四百三十四　[illegible]

四百三十五　[illegible]

四百三十六　[illegible]

四百三十七　[illegible]

四百三十八　[illegible]

四百三十九　[illegible]

四百四十　[illegible]

四百四十一　[illegible]

四百四十二　[illegible]

四百四十三　[illegible]

四百四十四　[illegible]

四百四十五　[illegible]

四百四十六　[illegible]

四百四十七　[illegible]

四百四十八　[illegible]

四百四十九　[illegible]

五百　[illegible]

五百一　[illegible]

五百二　[illegible]

五百三　[illegible]

五百四　[illegible]

五百五　[illegible]

五百六　[illegible]

五百七　[illegible]

五百八　[illegible]

五百九　[illegible]

五百十　[illegible]

五百十一　[illegible]

五百十二　[illegible]

五百十三　[illegible]

五百十四　[illegible]

五百十五　[illegible]

五百十六　[illegible]

五百十七　[illegible]

五百十八　[illegible]

五百十九　[illegible]

五百二十　[illegible]

五百二十一　[illegible]

五百二十二　[illegible]

五百二十三　[illegible]

五百二十四　[illegible]

五百二十五　[illegible]

五百二十六　[illegible]

五百二十七　[illegible]

五百二十八　[illegible]

五百二十九　[illegible]

五百三十　[illegible]

五百三十一　[illegible]

五百三十二　[illegible]

五百三十三　[illegible]

五百三十四　[illegible]

五百三十五　[illegible]

五百三十六　[illegible]

五百三十七　[illegible]

五百三十八　[illegible]

五百三十九　[illegible]

五百四十　[illegible]

五百四十一　[illegible]

五百四十二　[illegible]

五百四十三　[illegible]

五百四十四　[illegible]

五百四十五　[illegible]

五百四十六　[illegible]

五百四十七　[illegible]

五百四十八　[illegible]

五百四十九　[illegible]

六百　[illegible]

六百一　[illegible]

六百二　[illegible]

六百三　[illegible]

六百四　[illegible]

六百五　[illegible]

六百六　[illegible]

六百七　[illegible]

六百八　[illegible]

六百九　[illegible]

六百十　[illegible]

六百十一　[illegible]

六百十二　[illegible]

六百十三　[illegible]

六百十四　[illegible]

六百十五　[illegible]

六百十六　[illegible]

六百十七　[illegible]

六百十八　[illegible]

六百十九　[illegible]

六百二十　[illegible]

六百二十一　[illegible]

六百二十二　[illegible]

六百二十三　[illegible]

六百二十四　[illegible]

六百二十五　[illegible]

六百二十六　[illegible]

六百二十七　[illegible]

六百二十八　[illegible]

六百二十九　[illegible]

六百三十　[illegible]

六百三十一　[illegible]

六百三十二　[illegible]

六百三十三　[illegible]

六百三十四　[illegible]

六百三十五　[illegible]

六百三十六　[illegible]

六百三十七　[illegible]

六百三十八　[illegible]

六百三十九　[illegible]

六百四十　[illegible]

六百四十一　[illegible]

六百四十二　[illegible]

六百四十三　[illegible]

六百四十四　[illegible]

六百四十五　[illegible]

六百四十六　[illegible]

六百四十七　[illegible]

六百四十八　[illegible]

六百四十九　[illegible]

七百　[illegible]

七百一　[illegible]

七百二　[illegible]

七百三　[illegible]

七百四　[illegible]

七百五　[illegible]

七百六　[illegible]

七百七　[illegible]

七百八　[illegible]

七百九　[illegible]

七百十　[illegible]

七百十一　[illegible]

七百十二　[illegible]

七百十三　[illegible]

七百十四　[illegible]

七百十五　[illegible]

七百十六　[illegible]

七百十七　[illegible]

七百十八　[illegible]

七百十九　[illegible]

七百二十　[illegible]

七百二十一　[illegible]

七百二十二　[illegible]

七百二十三　[illegible]

七百二十四　[illegible]

七百二十五　[illegible]

七百二十六　[illegible]

七百二十七　[illegible]

七百二十八　[illegible]

七百二十九　[illegible]

七百三十　[illegible]

七百三十一　[illegible]

七百三十二　[illegible]

七百三十三　[illegible]

七百三十四　[illegible]

七百三十五　[illegible]

七百三十六　[illegible]

七百三十七　[illegible]

七百三十八　[illegible]

七百三十九　[illegible]

七百四十　[illegible]

七百四十一　[illegible]

七百四十二　[illegible]

七百四十三　[illegible]

七百四十四　[illegible]

七百四十五　[illegible]

七百四十六　[illegible]

七百四十七　[illegible]

七百四十八　[illegible]

七百四十九　[illegible]

八百　[illegible]

八百一　[illegible]

八百二　[illegible]

八百三　[illegible]

八百四　[illegible]

八百五　[illegible]

八百六　[illegible]

八百七　[illegible]

八百八　[illegible]

八百九　[illegible]

八百十　[illegible]

八百十一　[illegible]

八百十二　[illegible]

八百十三　[illegible]

八百十四　[illegible]

八百十五　[illegible]

八百十六　[illegible]

八百十七　[illegible]

八百十八　[illegible]

八百十九　[illegible]

八百二十　[illegible]

八百二十一　[illegible]

八百二十二　[illegible]

八百二十三　[illegible]

八百二十四　[illegible]

八百二十五　[illegible]

八百二十六　[illegible]

八百二十七　[illegible]

八百二十八　[illegible]

八百二十九　[illegible]

八百三十　[illegible]

八百三十一　[illegible]

八百三十二　[illegible]

八百三十三　[illegible]

八百三十四　[illegible]

八百三十五　[illegible]

八百三十六　[illegible]

八百三十七　[illegible]

八百三十八　[illegible]

八百三十九　[illegible]

八百四十　[illegible]

八百四十一　[illegible]

八百四十二　[illegible]

八百四十三　[illegible]

八百四十四　[illegible]

八百四十五　[illegible]

八百四十六　[illegible]

八百四十七　[illegible]

八百四十八　[illegible]

八百四十九　[illegible]

九百　[illegible]

九百一　[illegible]

九百二　[illegible]

九百三　[illegible]

九百四　[illegible]

九百五　[illegible]

九百六　[illegible]

九百七　[illegible]

九百八　[illegible]

九百九　[illegible]

九百十　[illegible]

九百十一　[illegible]

九百十二　[illegible]

九百十三　[illegible]

九百十四　[illegible]

九百十五　[illegible]

九百十六　[illegible]

九百十七　[illegible]

九百十八　[illegible]

九百十九　[illegible]

九百二十　[illegible]

九百二十一　[illegible]

九百二十二　[illegible]

九百二十三　[illegible]

九百二十四　[illegible]

九百二十五　[illegible]

九百二十六　[illegible]

九百二十七　[illegible]

九百二十八　[illegible]

九百二十九　[illegible]

九百三十　[illegible]

九百三十一　[illegible]

九百三十二　[illegible]

九百三十三　[illegible]

九百三十四　[illegible]

九百三十五　[illegible]

九百三十六　[illegible]

九百三十七　[illegible]

九百三十八　[illegible]

九百三十九　[illegible]

九百四十　[illegible]

九百四十一　[illegible]

九百四十二　[illegible]

九百四十三　[illegible]

九百四十四　[illegible]

九百四十五　[illegible]

九百四十六　[illegible]

九百四十七　[illegible]

九百四十八　[illegible]

九百四十九　[illegible]

十百　[illegible]

十百一　[illegible]

十百二　[illegible]

十百三　[illegible]

十百四　[illegible]

十百五　[illegible]

十百六　[illegible]

十百七　[illegible]

十百八　[illegible]

十百九　[illegible]

十百十　[illegible]

十百十一　[illegible]

十百十二　[illegible]

十百十三　[illegible]

十百十四　[illegible]

十百十五　[illegible]

十百十六　[illegible]

十百十七　[illegible]

十百十八　[illegible]

十百十九　[illegible]

十百二十　[illegible]

十百二十一　[illegible]

十百二十二　[illegible]

十百二十三　[illegible]

十百二十四　[illegible]

十百二十五　[illegible]

十百二十六　[illegible]

十百二十七　[illegible]

十百二十八　[illegible]

十百二十九　[illegible]

十百三十　[illegible]

十百三十一　[illegible]

十百三十二　[illegible]

十百三十三　[illegible]

十百三十四　[illegible]

十百三十五　[illegible]

十百三十六　[illegible]

十百三十七　[illegible]

十百三十八　[illegible]

十百三十九　[illegible]

十百四十　[illegible]

十百四十一　[illegible]

十百四十二　[illegible]

十百四十三　[illegible]

十百四十四　[illegible]

十百四十五　[illegible]

十百四十六　[illegible]

十百四十七　[illegible]

十百四十八　[illegible]

十百四十九　[illegible]

十百五十　[illegible]

十百五十一　[illegible]

十百五十二　[illegible]

十百五十三　[illegible]

十百五十四　[illegible]

十百五十五　[illegible]

十百五十六　[illegible]

十百五十七　[illegible]

十百五十八　[illegible]

十百五十九　[illegible]

十百六十　[illegible]

十百六十一　[illegible]

十百六十二　[illegible]

十百六十三　[illegible]

十百六十四　[illegible]

十百六十五　[illegible]

十百六十六　[illegible]

十百六十七　[illegible]

十百六十八　[illegible]

十百六十九　[illegible]

十百七十　[illegible]

十百七十一　[illegible]

十百七十二　[illegible]

十百七十三　[illegible]

十百七十四　[illegible]

十百七十五　[illegible]

十百七十六　[illegible]

十百七十七　[illegible]

十百七十八　[illegible]

十百七十九　[illegible]

十百八十　[illegible]

十百八十一　[illegible]

十百八十二　[illegible]

十百八十三　[illegible]

十百八十四　[illegible]

十百八十五　[illegible]

十百八十六　[illegible]

十百八十七　[illegible]

十百八十八　[illegible]

十百八十九　[illegible]

十百九十　[illegible]

十百九十一　[illegible]

十百九十二　[illegible]

十百九十三　[illegible]

十百九十四　[illegible]

十百九十五　[illegible]

十百九十六　[illegible]

十百九十七　[illegible]

十百九十八　[illegible]

十百九十九　[illegible]

十百百　[illegible]

十百百一　[illegible]

十百百二　[illegible]

十百百三　[illegible]

十百百四　[illegible]

十百百五　[illegible]

十百百六　[illegible]

十百百七　[illegible]

十百百八　[illegible]

十百百九　[illegible]

十百百十　[illegible]

十百百十一　[illegible]

十百百十二　[illegible]

十百百十三　[illegible]

十百百十四　[illegible]

十百百十五　[illegible]

十百百十六　[illegible]

十百百十七　[illegible]

十百百十八　[illegible]

十百百十九　[illegible]

十百百二十　[illegible]

十百百二十一　[illegible]

十百百二十二　[illegible]

十百百二十三　[illegible]

十百百二十四　[illegible]

十百百二十五　[illegible]

十百百二十六　[illegible]

十百百二十七　[illegible]

十百百二十八　[illegible]

十百百二十九　[illegible]

十百百三十　[illegible]

十百百三十一　[illegible]

十百百三十二　[illegible]

十百百三十三　[illegible]

十百百三十四　[illegible]

十百百三十五　[illegible]

十百百三十六　[illegible]

十百百三十七　[illegible]

十百百三十八　[illegible]

十百百三十九　[illegible]

十百百四十　[illegible]

十百百四十一　[illegible]

十百百四十二　[illegible]

十百百四十三　[illegible]

十百百四十四　[illegible]

十百百四十五　[illegible]

十百百四十六　[illegible]

十百百四十七　[illegible]

十百百四十八　[illegible]

十百百四十九　[illegible]

十百百五十　[illegible]

十百百五十一　[illegible]

十百百五十二　[illegible]

十百百五十三　[illegible]

十百百五十四　[illegible]

十百百五十五　[illegible]

十百百五十六　[illegible]

十百百五十七　[illegible]

十百百五十八　[illegible]

十百百五十九　[illegible]

十百百六十　[illegible]

十百百六十一　[illegible]

十百百六十二　[illegible]

十百百六十三　[illegible]

十百百六十四　[illegible]

十百百六十五　[illegible]

十百百六十六　[illegible]

十百百六十七　[illegible]

十百百六十八　[illegible]

十百百六十九　[illegible]

十百百七十　[illegible]

十百百七十一　[illegible]

十百百七十二　[illegible]

十百百七十三　[illegible]

十百百七十四　[illegible]

十百百七十五　[illegible]

十百百七十六　[illegible]

十百百七十七　[illegible]

十百百七十八　[illegible]

十百百七十九　[illegible]

十百百八十　[illegible]

十百百八十一　[illegible]

十百百八十二　[illegible]

十百百八十三　[illegible]

十百百八十四　[illegible]

十百百八十五　[illegible]

十百百八十六　[illegible]

十百百八十七　[illegible]

十百百八十八　[illegible]

十百百八十九　[illegible]

十百百九十　[illegible]

十百百九十一　[illegible]

十百百九十二　[illegible]

十百百九十三　[illegible]

十百百九十四　[illegible]

十百百九十五　[illegible]

十百百九十六　[illegible]

十百百九十七　[illegible]

十百百九十八　[illegible]

十百百九十九　[illegible]

十百百百　[illegible]

十百百百一　[illegible]

十百百百二　[illegible]

十百百百三　[illegible]

十百百百四　[illegible]

十百百百五　[illegible]

十百百百六　[illegible]

十百百百七　[illegible]

十百百百八　[illegible]

十百百百九　[illegible]

十百百百十　[illegible]

十百百百十一　[illegible]

十百百百十二　[illegible]

十百百百十三　[illegible]

十百百百十四　[illegible]

十百百百十五　[illegible]

十百百百十六　[illegible]

十百百百十七　[illegible]

十百百百十八　[illegible]

十百百百十九　[illegible]

十百百百二十　[illegible]

十百百百二十一　[illegible]

十百百百二十二　[illegible]

十百百百二十三　[illegible]

十百百百二十四　[illegible]

十百百百二十五　[illegible]

十百百百二十六　[illegible]

十百百百二十七　[illegible]

十百百百二十八　[illegible]

十百百百二十九　[illegible]

十百百百三十　[illegible]

十百百百三十一　[illegible]

十百百百三十二　[illegible]

十百百百三十三　[illegible]

十百百百三十四　[illegible]

十百百百三十五　[illegible]

十百百百三十六　[illegible]

十百百百三十七　[illegible]

十百百百三十八　[illegible]

十百百百三十九　[illegible]

十百百百四十　[illegible]

十百百百四十一　[illegible]

十百百百四十二　[illegible]

十百百百四十三　[illegible]

十百百百四十四　[illegible]

十百百百四十五　[illegible]

十百百百四十六　[illegible]

十百百百四十七　[illegible]

十百百百四十八　[illegible]

十百百百四十九　[illegible]

十百百百五十　[illegible]

十百百百五十一　[illegible]

十百百百五十二　[illegible]

十百百百五十三　[illegible]

十百百百五十四　[illegible]

十百百百五十五　[illegible]

十百百百五十六　[illegible]

十百百百五十七　[illegible]

十百百百五十八　[illegible]

十百百百五十九　[illegible]

十百百百六十　[illegible]

十百百百六十一　[illegible]

十百百百六十二　[illegible]

十百百百六十三　[illegible]

十百百百六十四　[illegible]

十百百百六十五　[illegible]

十百百百六十六　[illegible]

十百百百六十七　[illegible]

十百百百六十八　[illegible]

十百百百六十九　[illegible]

十百百百七十　[illegible]

十百百百七十一　[illegible]

十百百百七十二　[illegible]

十百百百七十三　[illegible]

十百百百七十四　[illegible]

十百百百七十五　[illegible]

十百百百七十六　[illegible]

十百百百七十七　[illegible]

十百百百七十八　[illegible]

十百百百七十九　[illegible]

十百百百八十　[illegible]

十百百百八十一　[illegible]

十百百百八十二　[illegible]

十百百百八十三　[illegible]

十百百百八十四　[illegible]

十百百百八十五　[illegible]

十百百百八十六　[illegible]

十百百百八十七　[illegible]

十百百百八十八　[illegible]

十百百百八十九　[illegible]

十百百百九十　[illegible]

十百百百九十一　[illegible]

十百百百九十二　[illegible]

十百百百九十三　[illegible]

十百百百九十四　[illegible]

十百百百九十五　[illegible]

十百百百九十六　[illegible]

十百百百九十七　[illegible]

十百百百九十八　[illegible]

十百百百九十九　[illegible]

十百百百百　[illegible]

十百百百百一　[illegible]

十百百百百二　[illegible]

十百百百百三　[illegible]

十百百百百四　[illegible]

十百百百百五　[illegible]

十百百百百六　[illegible]

十百百百百七　[illegible]

十百百百百八　[illegible]

十百百百百九　[illegible]

十百百百百十　[illegible]

十百百百百十一　[illegible]

十百百百百十二　[illegible]

十百百百百十三　[illegible]

十百百百百十四　[illegible]

十百百百百十五　[illegible]

十百百百百十六　[illegible]

十百百百百十七　[illegible]

十百百百百十八　[illegible]

十百百百百十九　[illegible]

十百百百百二十　[illegible]

十百百百百二十一　[illegible]

十百百百百二十二　[illegible]

十百百百百二十三　[illegible]

十百百百百二十四　[illegible]

十百百百百二十五　[illegible]

十百百百百二十六　[illegible]

十百百百百二十七　[illegible]

十百百百百二十八　[illegible]

十百百百百二十九　[illegible]

十百百百百三十　[illegible]

十百百百百三十一　[illegible]

十百百百百三十二　[illegible]

十百百百百三十三　[illegible]

十百百百百三十四　[illegible]

十百百百百三十五　[illegible]

十百百百百三十六　[illegible]

十百百百百三十七　[illegible]

十百百百百三十八　[illegible]

十百百百百三十九　[illegible]

十百百百百四十　[illegible]

十百百百百四十一　[illegible]

十百百百百四十二　[illegible]

十百百百百四十三　[illegible]

十百百百百四十四　[illegible]

十百百百百四十五　[illegible]

十百百百百四十六　[illegible]

十百百百百四十七　[illegible]

十百百百百四十八　[illegible]

十百百百百四十九　[illegible]

十百百百百五十　[illegible]

十百百百百五十一　[illegible]

十百百百百五十二　[illegible]

十百百百百五十三　[illegible]

十百百百百五十四　[illegible]

十百百百百五十五　[illegible]

十百百百百五十六　[illegible]

十百百百百五十七　[illegible]

十百百百百五十八　[illegible]

十百百百百五十九　[illegible]

十百百百百六十　[illegible]

十百百百百六十一　[illegible]

十百百百百六十二　[illegible]

十百百百百六十三　[illegible]

十百百百百六十四　[illegible]

十百百百百六十五　[illegible]

十百百百百六十六　[illegible]

十百百百百六十七　[illegible]

十百百百百六十八　[illegible]

十百百百百六十九　[illegible]

十百百百百七十　[illegible]

十百百百百七十一　[illegible]

十百百百百七十二　[illegible]

十百百百百七十三　[illegible]

十百百百百七十四　[illegible]

十百百百百七十五　[illegible]

十百百百百七十六　[illegible]

十百百百百七十七　[illegible]

十百百百百七十八　[illegible]

十百百百百七十九　[illegible]

十百百百百八十　[illegible]

十百百百百八十一　[illegible]

十百百百百八十二　[illegible]

十百百百百八十三　[illegible]

十百百百百八十四　[illegible]

十百百百百八十五　[illegible]

十百百百百八十六　[illegible]

十百百百百八十七　[illegible]

十百百百百八十八　[illegible]

十百百百百八十九　[illegible]

十百百百百九十　[illegible]

十百百百百九十一　[illegible]

十百百百百九十二　[illegible]

十百百百百九十三　[illegible]

十百百百百九十四　[illegible]

十百百百百九十五　[illegible]

十百百百百九十六　[illegible]

十百百百百九十七　[illegible]

十百百百百九十八　[illegible]

十百百百百九十九　[illegible]

十百百百百百　[illegible]

十百百百百百一　[illegible]

十百百百百百二　[illegible]

十百百百百百三　[illegible]

十百百百百百四　[illegible]

十百百百百百五　[illegible]

十百百百百百六　[illegible]

十百百百百百七　[illegible]

十百百百百百八　[illegible]

十百百百百百九　[illegible]

十百百百百百十　[illegible]

十百百百百百十一　[illegible]

十百百百百百十二　[illegible]

十百百百百百十三　[illegible]

十百百百百百十四　[illegible]

十百百百百百十五　[illegible]

十百百百百百十六　[illegible]

十百百百百百十七　[illegible]

十百百百百百十八　[illegible]

十百百百百百十九　[illegible]

十百百百百百二十　[illegible]

十百百百百百二十一　[illegible]

十百百百百百二十二　[illegible]

十百百百百百二十三　[illegible]

十百百百百百二十四　[illegible]

十百百百百百二十五　[illegible]

十百百百百百二十六　[illegible]

十百百百百百二十七　[illegible]

十百百百百百二十八　[illegible]

十百百百百百二十九　[illegible]

十百百百百百三十　[illegible]

十百百百百百三十一　[illegible]

十百百百百百三十二　[illegible]

十百百百百百三十三　[illegible]

十百百百百百三十四　[illegible]

十百百百百百三十五　[illegible]

十百百百百百三十六　[illegible]

十百百百百百三十七　[illegible]

十百百百百百三十八　[illegible]

十百百百百百三十九　[illegible]

十百百百百百四十　[illegible]

十百百百百百四十一　[illegible]

十百百百百百四十二　[illegible]

十百百百百百四十三　[illegible]

十百百百百百四十四　[illegible]

十百百百百百四十五　[illegible]

十百百百百百四十六　[illegible]

十百百百百百四十七　[illegible]

十百百百百百四十八　[illegible]

十百百百百百四十九　[illegible]

十百百百百百五十　[illegible]

十百百百百百五十一　[illegible]

十百百百百百五十二　[illegible]

十百百百百百五十三　[illegible]

十百百百百百五十四　[illegible]

十百百百百百五十五　[illegible]

十百百百百百五十六　[illegible]

十百百百百百五十七　[illegible]

十百百百百百五十八　[illegible]

十百百百百百五十九　[illegible]

十百百百百百六十　[illegible]

十百百百百百六十一　[illegible]

十百百百百百六十二　[illegible]

十百百百百百六十三　[illegible]

十百百百百百六十四　[illegible]

十百百百百百六十五　[illegible]

十百百百百百六十六　[illegible]

十百百百百百六十七　[illegible]

十百百百百百六十八　[illegible]

十百百百百百六十九　[illegible]

十百百百百百七十　[illegible]

十百百百百百七十一　[illegible]

十百百百百百七十二　[illegible]

十百百百百百七十三　[illegible]

十百百百百百七十四　[illegible]

十百百百百百七十五　[illegible]

十百百百百百七十六　[illegible]

十百百百百百七十七　[illegible]

十百百百百百七十八　[illegible]

十百百百百百七十九　[illegible]

十百百百百百八十　[illegible]

十百百百百百八十一　[illegible]

十百百百百百八十二　[illegible]

十百百百百百八十三　[illegible]

十百百百百百八十四　[illegible]

十百百百百百八十五　[illegible]

十百百百百百八十六　[illegible]

十百百百百百八十七　[illegible]

十百百百百百八十八　[illegible]

十百百百百百八十九　[illegible]

十百百百百百九十　[illegible]

十百百百百百九十一　[illegible]

十百百百百百九十二　[illegible]

十百百百百百九十三　[illegible]

十百百百百百九十四　[illegible]

十百百百百百九十五　[illegible]

十百百百百百九十六　[illegible]

十百百百百百九十七　[illegible]

十百百百百百九十八　[illegible]

十百百百百百九十九　[illegible]

十百百百百百百　[illegible]

十百百百百百百一　[illegible]

十百百百百百百二　[illegible]

十百百百百百百三　[illegible]

十百百百百百百四　[illegible]

十百百百百百百五　[illegible]

十百百百百百百六　[illegible]

十百百百百百百七　[illegible]

十百百百百百百八　[illegible]

十百百百百百百九　[illegible]

十百百百百百百十　[illegible]

十百百百百百百十一　[illegible]

十百百百百百百十二　[illegible]

十百百百百百百十三　[illegible]

十百百百百百百十四　[illegible]

十百百百百百百十五　[illegible]

十百百百百百百十六　[illegible]

十百百百百百百十七　[illegible]

十百百百百百百十八　[illegible]

十百百百百百百十九　[illegible]

十百百百百百百二十　[illegible]

十百百百百百百二十一　[illegible]

十百百百百百百二十二　[illegible]

十百百百百百百二十三　[illegible]

十百百百百百百二十四　[illegible]

十百百百百百百二十五　[illegible]

十百百百百百百二十六　[illegible]

十百百百百百百二十七　[illegible]

十百百百百百百二十八　[illegible]

十百百百百百百二十九　[illegible]

十百百百百百百三十　[illegible]

十百百百百百百三十一　[illegible]

十百百百百百百三十二　[illegible]

十百百百百百百三十三　[illegible]

十百百百百百百三十四　[illegible]

十百百百百百百三十五　[illegible]

十百百百百百百三十六　[illegible]

十百百百百百百三十七　[illegible]

十百百百百百百三十八　[illegible]

十百百百百百百三十九　[illegible]

十百百百百百百四十　[illegible]

十百百百百百百四十一　[illegible]

十百百百百百百四十二　[illegible]

十百百百百百百四十三　[illegible]

十百百百百百百四十四　[illegible]

十百百百百百百四十五　[illegible]

十百百百百百百四十六　[illegible]

十百百百百百百四十七　[illegible]

十百百百百百百四十八　[illegible]

十百百百百百百四十九　[illegible]

十百百百百百百五十　[illegible]

十百百百百百百五十一　[illegible]

十百百百百百百五十二　[illegible]

十百百百百百百五十三　[illegible]

十百百百百百百五十四　[illegible]

十百百百百百百五十五　[illegible]

十百百百百百百五十六　[illegible]

十百百百百百百五十七　[illegible]

十百百百百百百五十八　[illegible]

十百百百百百百五十九　[illegible]

十百百百百百百六十　[illegible]

十百百百百百百六十一　[illegible]

十百百百百百百六十二　[illegible]

十百百百百百百六十三　[illegible]

十百百百百百百六十四　[illegible]

十百百百百百百六十五　[illegible]

十百百百百百百六十六　[illegible]

十百百百百百百六十七　[illegible]

十百百百百百百六十八　[illegible]

十百百百百百百六十九　[illegible]

十百百百百百百七十　[illegible]

十百百百百百百七十一　[illegible]

十百百百百百百七十二　[illegible]

十百百百百百百七十三　[illegible]

十百百百百百百七十四　[illegible]

十百百百百百百七十五　[illegible]

十百百百百百百七十六　[illegible]

十百百百百百百七十七　[illegible]

十百百百百百百七十八　[illegible]

十百百百百百百七十九　[illegible]

十百百百百百百八十　[illegible]

十百百百百百百八十一　[illegible]

十百百百百百百八十二　[illegible]

十百百百百百百八十三　[illegible]

十百百百百百百八十四　[illegible]

十百百百百百百八十五　[illegible]

十百百百百百百八十六　[illegible]

十百百百百百百八十七　[illegible]

十百百百百百百八十八　[illegible]

十百百百百百百八十九　[illegible]

十百百百百百百九十　[illegible]

十百百百百百百九十一　[illegible]

十百百百百百百九十二　[illegible]

十百百百百百百九十三　[illegible]

十百百百百百百九十四　[illegible]

十百百百百百百九十五　[illegible]

十百百百百百百九十六　[illegible]

十百百百百百百九十七　[illegible]

十百百百百百百九十八　[illegible]

十百百百百百百九十九　[illegible]

十百百百百百百百　[illegible]

十百百百百百百百一　[illegible]

十百百百百百百百二　[illegible]

十百百百百百百百三　[illegible]

十百百百百百百百四　[illegible]

十百百百百百百百五　[illegible]

十百百百百百百百六　[illegible]

十百百百百百百百七　[illegible]

十百百百百百百百八　[illegible]

十百百百百百百百九　[illegible]

十百百百百百百百十　[illegible]

十百百百百百百百十一　[illegible]

十百百百百百百百十二　[illegible]

十百百百百百百百十三　[illegible]

十百百百百百百百十四　[illegible]

十百百百百百百百十五　[illegible]

十百百百百百百百十六　[illegible]

十百百百百百百百十七　[illegible]

十百百百百百百百十八　[illegible]

十百百百百百百百十九　[illegible]

十百百百百百百百二十　[illegible]

十百百百百百百百二十一　[illegible]

十百百百百百百百二十二　[illegible]

十百百百百百百百二十三　[illegible]

十百百百百百百百二十四　[illegible]

十百百百百百百百二十五　[illegible]

十百百百百百百百二十六　[illegible]

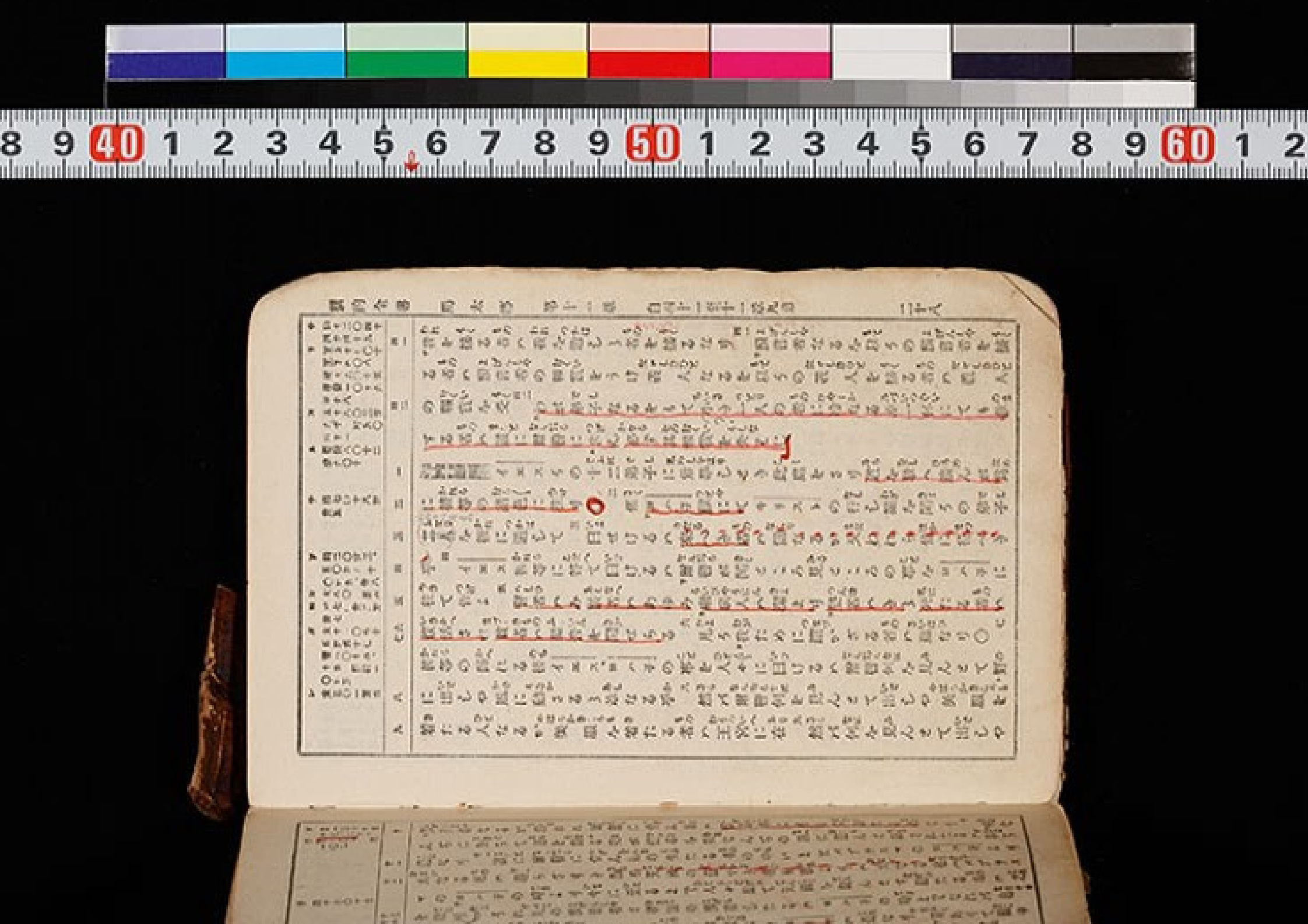
十百百百百百百百二十七　[illegible]

十百百百百百百百二十八　[illegible]

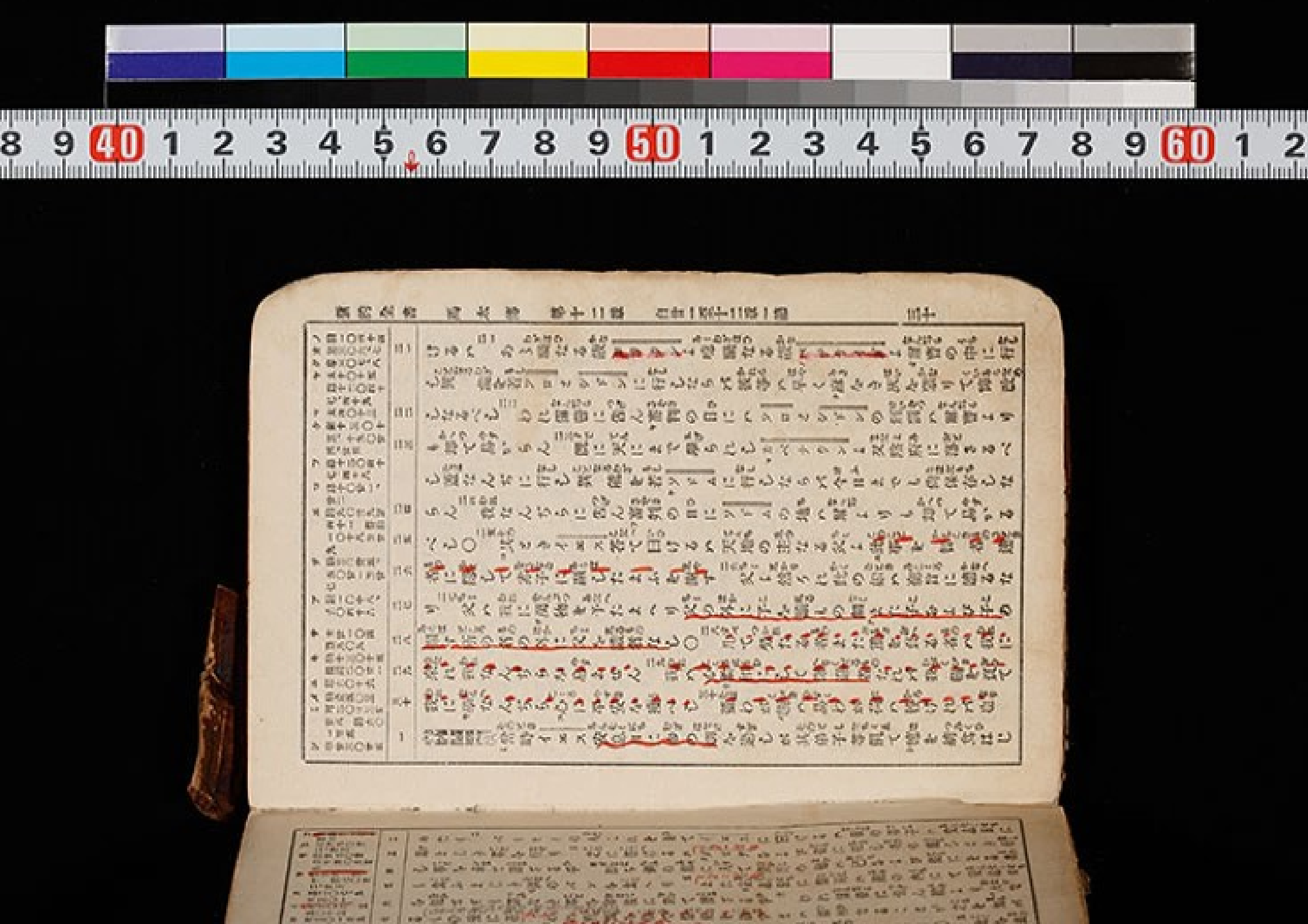
十百百百百百百百二十

ダ 第十〇二 新二〇十五 列十六〇八 使十二〇二 新二〇十 使二十一〇二十 使二十一〇十 使二十一〇十一 使二十一〇十二 使二十一〇十三 使二十一〇十四 使二十一〇十五 使二十一〇十六 使二十一〇十七 使二十一〇十八 使二十一〇十九 使二十一〇二十 使二十一〇二十一 使二十一〇二十二 使二十一〇二十三 使二十一〇二十四 使二十一〇二十五 使二十一〇二十六 使二十一〇二十七 使二十一〇二十八 使二十一〇二十九 使二十一〇三十 使二十一〇三十一 使二十一〇三十二 使二十一〇三十三 使二十一〇三十四 使二十一〇三十五 使二十一〇三十六 使二十一〇三十七 使二十一〇三十八 使二十一〇三十九 使二十一〇四十 使二十一〇四十一 使二十一〇四十二 使二十一〇四十三 使二十一〇四十四 使二十一〇四十五 使二十一〇四十六 使二十一〇四十七 使二十一〇四十八 使二十一〇四十九 使二十一〇五十 使二十一〇五十一 使二十一〇五十二 使二十一〇五十三 使二十一〇五十四 使二十一〇五十五 使二十一〇五十六 使二十一〇五十七 使二十一〇五十八 使二十一〇五十九 使二十一〇六十 使二十一〇六十一 使二十一〇六十二 使二十一〇六十三 使二十一〇六十四 使二十一〇六十五 使二十一〇六十六 使二十一〇六十七 使二十一〇六十八 使二十一〇六十九 使二十一〇七十 使二十一〇七十一 使二十一〇七十二 使二十一〇七十三 使二十一〇七十四 使二十一〇七十五 使二十一〇七十六 使二十一〇七十七 使二十一〇七十八 使二十一〇七十九 使二十一〇八十 使二十一〇八十一 使二十一〇八十二 使二十一〇八十三 使二十一〇八十四 使二十一〇八十五 使二十一〇八十六 使二十一〇八十七 使二十一〇八十八 使二十一〇八十九 使二十一〇九十 使二十一〇九十一 使二十一〇九十二 使二十一〇九十三 使二十一〇九十四 使二十一〇九十五 使二十一〇九十六 使二十一〇九十七 使二十一〇九十八 使二十一〇九十九 使二十一〇一百 使二十一〇一百一 使二十一〇一百二 使二十一〇一百三 使二十一〇一百四 使二十一〇一百五 使二十一〇一百六 使二十一〇一百七 使二十一〇一百八 使二十一〇一百九 使二十一〇二百 使二十一〇二百一 使二十一〇二百二 使二十一〇二百三 使二十一〇二百四 使二十一〇二百五 使二十一〇二百六 使二十一〇二百七 使二十一〇二百八 使二十一〇二百九 使二十一〇三百 使二十一〇三百一 使二十一〇三百二 使二十一〇三百三 使二十一〇三百四 使二十一〇三百五 使二十一〇三百六 使二十一〇三百七 使二十一〇三百八 使二十一〇三百九 使二十一〇四百 使二十一〇四百一 使二十一〇四百二 使二十一〇四百三 使二十一〇四百四 使二十一〇四百五 使二十一〇四百六 使二十一〇四百七 使二十一〇四百八 使二十一〇四百九 使二十一〇五百 使二十一〇五百一 使二十一〇五百二 使二十一〇五百三 使二十一〇五百四 使二十一〇五百五 使二十一〇五百六 使二十一〇五百七 使二十一〇五百八 使二十一〇五百九 使二十一〇六百 使二十一〇六百一 使二十一〇六百二 使二十一〇六百三 使二十一〇六百四 使二十一〇六百五 使二十一〇六百六 使二十一〇六百七 使二十一〇六百八 使二十一〇六百九 使二十一〇七百 使二十一〇七百一 使二十一〇七百二 使二十一〇七百三 使二十一〇七百四 使二十一〇七百五 使二十一〇七百六 使二十一〇七百七 使二十一〇七百八 使二十一〇七百九 使二十一〇八百 使二十一〇八百一 使二十一〇八百二 使二十一〇八百三 使二十一〇八百四 使二十一〇八百五 使二十一〇八百六 使二十一〇八百七 使二十一〇八百八 使二十一〇八百九 使二十一〇九百 使二十一〇九百一 使二十一〇九百二 使二十一〇九百三 使二十一〇九百四 使二十一〇九百五 使二十一〇九百六 使二十一〇九百七 使二十一〇九百八 使二十一〇九百九 使二十一〇一千 使二十一〇一千一 使二十一〇一千二 使二十一〇一千三 使二十一〇一千四 使二十一〇一千五 使二十一〇一千六 使二十一〇一千七 使二十一〇一千八 使二十一〇一千九 使二十一〇二千 使二十一〇二千一 使二十一〇二千二 使二十一〇二千三 使二十一〇二千四 使二十一〇二千五 使二十一〇二千六 使二十一〇二千七 使二十一〇二千八 使二十一〇二千九 使二十一〇三千 使二十一〇三千一 使二十一〇三千二 使二十一〇三千三 使二十一〇三千四 使二十一〇三千五 使二十一〇三千六 使二十一〇三千七 使二十一〇三千八 使二十一〇三千九 使二十一〇四千 使二十一〇四千一 使二十一〇四千二 使二十一〇四千三 使二十一〇四千四 使二十一〇四千五 使二十一〇四千六 使二十一〇四千七 使二十一〇四千八 使二十一〇四千九 使二十一〇五千 使二十一〇五千一 使二十一〇五千二 使二十一〇五千三 使二十一〇五千四 使二十一〇五千五 使二十一〇五千六 使二十一〇五千七 使二十一〇五千八 使二十一〇五千九 使二十一〇六千 使二十一〇六千一 使二十一〇六千二 使二十一〇六千三 使二十一〇六千四 使二十一〇六千五 使二十一〇六千六 使二十一〇六千七 使二十一〇六千八 使二十一〇六千九 使二十一〇七千 使二十一〇七千一 使二十一〇七千二 使二十一〇七千三 使二十一〇七千四 使二十一〇七千五 使二十一〇七千六 使二十一〇七千七 使二十一〇七千八 使二十一〇七千九 使二十一〇八千 使二十一〇八千一 使二十一〇八千二 使二十一〇八千三 使二十一〇八千四 使二十一〇八千五 使二十一〇八千六 使二十一〇八千七 使二十一〇八千八 使二十一〇八千九 使二十一〇九千 使二十一〇九千一 使二十一〇九千二 使二十一〇九千三 使二十一〇九千四 使二十一〇九千五 使二十一〇九千六 使二十一〇九千七 使二十一〇九千八 使二十一〇九千九 使二十一〇一万 使二十一〇一万一 使二十一〇一万二 使二十一〇一万三 使二十一〇一万四 使二十一〇一万五 使二十一〇一万六 使二十一〇一万七 使二十一〇一万八 使二十一〇一万九 使二十一〇二万 使二十一〇二万一 使二十一〇二万二 使二十一〇二万三 使二十一〇二万四 使二十一〇二万五 使二十一〇二万六 使二十一〇二万七 使二十一〇二万八 使二十一〇二万九 使二十一〇三万 使二十一〇三万一 使二十一〇三万二 使二十一〇三万三 使二十一〇三万四 使二十一〇三万五 使二十一〇三万六 使二十一〇三万七 使二十一〇三万八 使二十一〇三万九 使二十一〇四万 使二十一〇四万一 使二十一〇四万二 使二十一〇四万三 使二十一〇四万四 使二十一〇四万五 使二十一〇四万六 使二十一〇四万七 使二十一〇四万八 使二十一〇四万九 使二十一〇五万 使二十一〇五万一 使二十一〇五万二 使二十一〇五万三 使二十一〇五万四 使二十一〇五万五 使二十一〇五万六 使二十一〇五万七 使二十一〇五万八 使二十一〇五万九 使二十一〇六万 使二十一〇六万一 使二十一〇六万二 使二十一〇六万三 使二十一〇六万四 使二十一〇六万五 使二十一〇六万六 使二十一〇六万七 使二十一〇六万八 使二十一〇六万九 使二十一〇七万 使二十一〇七万一 使二十一〇七万二 使二十一〇七万三 使二十一〇七万四 使二十一〇七万五 使二十一〇七万六 使二十一〇七万七 使二十一〇七万八 使二十一〇七万九 使二十一〇八万 使二十一〇八万一 使二十一〇八万二 使二十一〇八万三 使二十一〇八万四 使二十一〇八万五 使二十一〇八万六 使二十一〇八万七 使二十一〇八万八 使二十一〇八万九 使二十一〇九万 使二十一〇九万一 使二十一〇九万二 使二十一〇九万三 使二十一〇九万四 使二十一〇九万五 使二十一〇九万六 使二十一〇九万七 使二十一〇九万八 使二十一〇九万九 使二十一〇一億 使二十一〇一億一 使二十一〇一億二 使二十一〇一億三 使二十一〇一億四 使二十一〇一億五 使二十一〇一億六 使二十一〇一億七 使二十一〇一億八 使二十一〇一億九 使二十一〇二億 使二十一〇二億一 使二十一〇二億二 使二十一〇二億三 使二十一〇二億四 使二十一〇二億五 使二十一〇二億六 使二十一〇二億七 使二十一〇二億八 使二十一〇二億九 使二十一〇三億 使二十一〇三億一 使二十一〇三億二 使二十一〇三億三 使二十一〇三億四 使二十一〇三億五 使二十一〇三億六 使二十一〇三億七 使二十一〇三億八 使二十一〇三億九 使二十一〇四億 使二十一〇四億一 使二十一〇四億二 使二十一〇四億三 使二十一〇四億四 使二十一〇四億五 使二十一〇四億六 使二十一〇四億七 使二十一〇四億八 使二十一〇四億九 使二十一〇五億 使二十一〇五億一 使二十一〇五億二 使二十一〇五億三 使二十一〇五億四 使二十一〇五億五 使二十一〇五億六 使二十一〇五億七 使二十一〇五億八 使二十一〇五億九 使二十一〇六億 使二十一〇六億一 使二十一〇六億二 使二十一〇六億三 使二十一〇六億四 使二十一〇六億五 使二十一〇六億六 使二十一〇六億七 使二十一〇六億八 使二十一〇六億九 使二十一〇七億 使二十一〇七億一 使二十一〇七億二 使二十一〇七億三 使二十一〇七億四 使二十一〇七億五 使二十一〇七億六 使二十一〇七億七 使二十一〇七億八 使二十一〇七億九 使二十一〇八億 使二十一〇八億一 使二十一〇八億二 使二十一〇八億三 使二十一〇八億四 使二十一〇八億五 使二十一〇八億六 使二十一〇八億七 使二十一〇八億八 使二十一〇八億九 使二十一〇九億 使二十一〇九億一 使二十一〇九億二 使二十一〇九億三 使二十一〇九億四 使二十一〇九億五 使二十一〇九億六 使二十一〇九億七 使二十一〇九億八 使二十一〇九億九 使二十一〇一兆 使二十一〇一兆一 使二十一〇一兆二 使二十一〇一兆三 使二十一〇一兆四 使二十一〇一兆五 使二十一〇一兆六 使二十一〇一兆七 使二十一〇一兆八 使二十一〇一兆九 使二十一〇二兆 使二十一〇二兆一 使二十一〇二兆二 使二十一〇二兆三 使二十一〇二兆四 使二十一〇二兆五 使二十一〇二兆六 使二十一〇二兆七 使二十一〇二兆八 使二十一〇二兆九 使二十一〇三兆 使二十一〇三兆一 使二十一〇三兆二 使二十一〇三兆三 使二十一〇三兆四 使二十一〇三兆五 使二十一〇三兆六 使二十一〇三兆七 使二十一〇三兆八 使二十一〇三兆九 使二十一〇四兆 使二十一〇四兆一 使二十一〇四兆二 使二十一〇四兆三 使二十一〇四兆四 使二十一〇四兆五 使二十一〇四兆六 使二十一〇四兆七 使二十一〇四兆八 使二十一〇四兆九 使二十一〇五兆 使二十一〇五兆一 使二十一〇五兆二 使二十一〇五兆三 使二十一〇五兆四 使二十一〇五兆五 使二十一〇五兆六 使二十一〇五兆七 使二十一〇五兆八 使二十一〇五兆九 使二十一〇六兆 使二十一〇六兆一 使二十一〇六兆二 使二十一〇六兆三 使二十一〇六兆四 使二十一〇六兆五 使二十一〇六兆六 使二十一〇六兆七 使二十一〇六兆八 使二十一〇六兆九 使二十一〇七兆 使二十一〇七兆一 使二十一〇七兆二 使二十一〇七兆三 使二十一〇七兆四 使二十一〇七兆五 使二十一〇七兆六 使二十一〇七兆七 使二十一〇七兆八 使二十一〇七兆九 使二十一〇八兆 使二十一〇八兆一 使二十一〇八兆二 使二十一〇八兆三 使二十一〇八兆四 使二十一〇八兆五 使二十一〇八兆六 使二十一〇八兆七 使二十一〇八兆八 使二十一〇八兆九 使二十一〇九兆 使二十一〇九兆一 使二十一〇九兆二 使二十一〇九兆三 使二十一〇九兆四 使二十一〇九兆五 使二十一〇九兆六 使二十一〇九兆七 使二十一〇九兆八 使二十一〇九兆九 使二十一〇一京 使二十一〇一京一 使二十一〇一京二 使二十一〇一京三 使二十一〇一京四 使二十一〇一京五 使二十一〇一京六 使二十一〇一京七 使二十一〇一京八 使二十一〇一京九 使二十一〇二京 使二十一〇二京一 使二十一〇二京二 使二十一〇二京三 使二十一〇二京四 使二十一〇二京五 使二十一〇二京六 使二十一〇二京七 使二十一〇二京八 使二十一〇二京九 使二十一〇三京 使二十一〇三京一 使二十一〇三京二 使二十一〇三京三 使二十一〇三京四 使二十一〇三京五 使二十一〇三京六 使二十一〇三京七 使二十一〇三京八 使二十一〇三京九 使二十一〇四京 使二十一〇四京一 使二十一〇四京二 使二十一〇四京三 使二十一〇四京四 使二十一〇四京五 使二十一〇四京六 使二十一〇四京七 使二十一〇四京八 使二十一〇四京九 使二十一〇五京 使二十一〇五京一 使二十一〇五京二 使二十一〇五京三 使二十一〇五京四 使二十一〇五京五 使二十一〇五京六 使二十一〇五京七 使二十一〇五京八 使二十一〇五京九 使二十一〇六京 使二十一〇六京一 使二十一〇六京二 使二十一〇六京三 使二十一〇六京四 使二十一〇六京五 使二十一〇六京六 使二十一〇六京七 使二十一〇六京八 使二十一〇六京九 使二十一〇七京 使二十一〇七京一 使二十一〇七京二 使二十一〇七京三 使二十一〇七京四 使二十一〇七京五 使二十一〇七京六 使二十一〇七京七 使二十一〇七京八 使二十一〇七京九 使二十一〇八京 使二十一〇八京一 使二十一〇八京二 使二十一〇八京三 使二十一〇八京四 使二十一〇八京五 使二十一〇八京六 使二十一〇八京七 使二十一〇八京八 使二十一〇八京九 使二十一〇九京 使二十一〇九京一 使二十一〇九京二 使二十一〇九京三 使二十一〇九京四 使二十一〇九京五 使二十一〇九京六 使二十一〇九京七 使二十一〇九京八 使二十一〇九京九 使二十一〇一垓 使二十一〇一垓一 使二十一〇一垓二 使二十一〇一垓三 使二十一〇一垓四 使二十一〇一垓五 使二十一〇一垓六 使二十一〇一垓七 使二十一〇一垓八 使二十一〇一垓九 使二十一〇二垓 使二十一〇二垓一 使二十一〇二垓二 使二十一〇二垓三 使二十一〇二垓四 使二十一〇二垓五 使二十一〇二垓六 使二十一〇二垓七 使二十一〇二垓八 使二十一〇二垓九 使二十一〇三垓 使二十一〇三垓一 使二十一〇三垓二 使二十一〇三垓三 使二十一〇三垓四 使二十一〇三垓五 使二十一〇三垓六 使二十一〇三垓七 使二十一〇三垓八 使二十一〇三垓九 使二十一〇四垓 使二十一〇四垓一 使二十一〇四垓二 使二十一〇四垓三 使二十一〇四垓四 使二十一〇四垓五 使二十一〇四垓六 使二十一〇四垓七 使二十一〇四垓八 使二十一〇四垓九 使二十一〇五垓 使二十一〇五垓一 使二十一〇五垓二 使二十一〇五垓三 使二十一〇五垓四 使二十一〇五垓五 使二十一〇五垓六 使二十一〇五垓七 使二十一〇五垓八 使二十一〇五垓九 使二十一〇六垓 使二十一〇六垓一 使二十一〇六垓二 使二十一〇六垓三 使二十一〇六垓四 使二十一〇六垓五 使二十一〇六垓六 使二十一〇六垓七 使二十一〇六垓八 使二十一〇六垓九 使二十一〇七垓 使二十一〇七垓一 使二十一〇七垓二 使二十一〇七垓三 使二十一〇七垓四 使二十一〇七垓五 使二十一〇七垓六 使二十一〇七垓七 使二十一〇七垓八 使二十一〇七垓九 使二十一〇八垓 使二十一〇八垓一 使二十一〇八垓二 使二十一〇八垓三 使二十一〇八垓四 使二十一〇八垓五 使二十一〇八垓六 使二十一〇八垓七 使二十一〇八垓八 使二十一〇八垓九 使二十一〇九垓 使二十一〇九垓一 使二十一〇九垓二 使二十一〇九垓三 使二十一〇九垓四 使二十一〇九垓五 使二十一〇九垓六 使二十一〇九垓七 使二十一〇九垓八 使二十一〇九垓

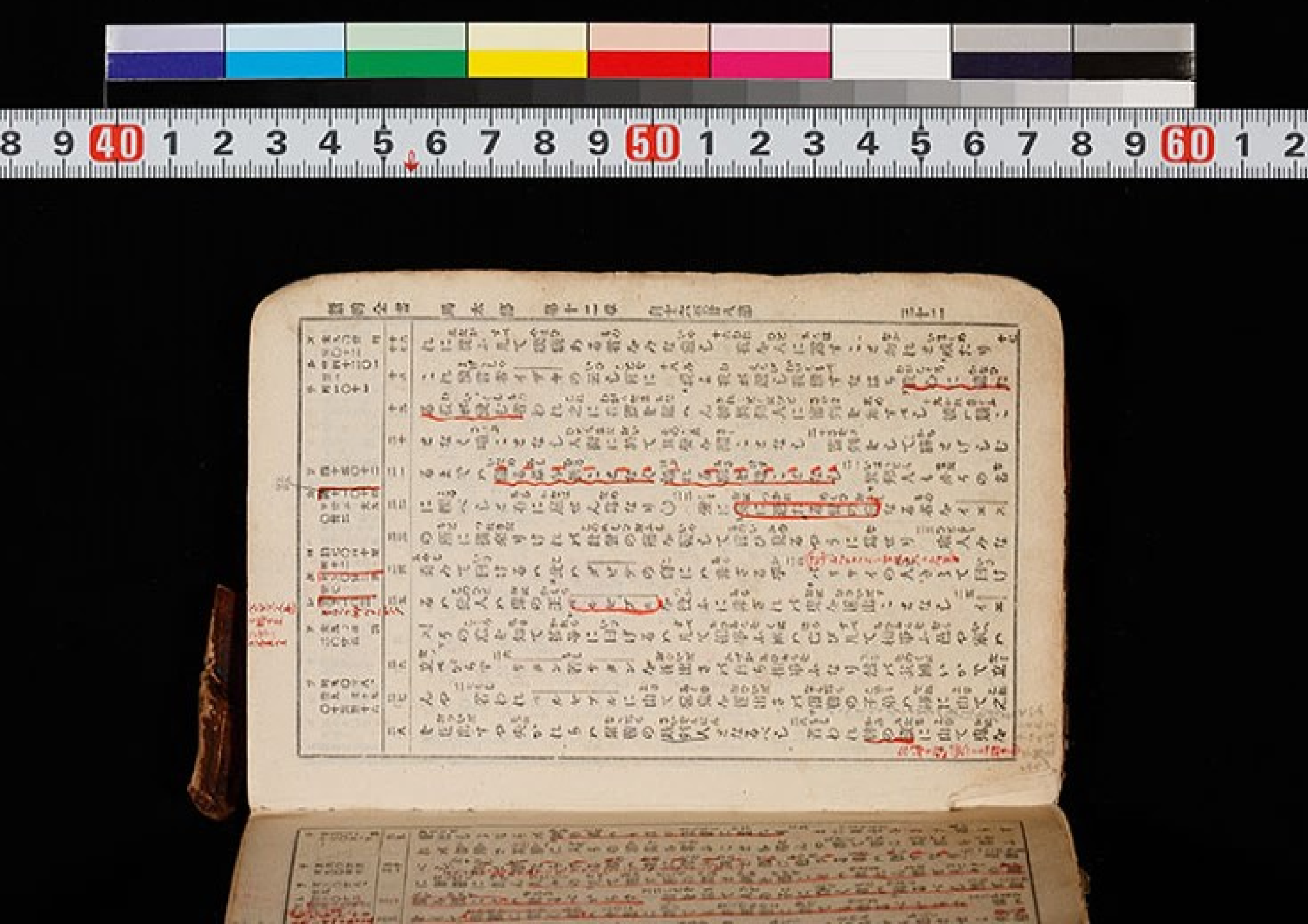
四に信らこと為明に然よ耳なつけて聞しこと屋上に宣揚めよ
二八 命を殺して魂を殺すこと能へざる者を懼るゝ勿れ唯なんぢら魂と命とを地獄
に滅し得る者を懼れよ　二羽の雀は一銭にて買に来すや然るに汝等の父
の許なくば其一羽も地に陥ることなし　汝等の頭の悉また皆かぞへらる
故に懼るゝ勿れ汝等は多の雀よりも貴し
三二 然れば凡ろ人の前に我を認
さ言んを我も亦天に在す我父の前に之を認さ言ん　人の前に我を認す
さ言んを我も亦天に在す我父の前に之を認さ言べし　地に平和を
出さんと我来れりと為なかれ平和を出さんとに非ず刃を出さんとに来
三四 れり　夫わが来るは人を其父に背かせ女を其母に背かせ媳を其姑に背
三五 かせんが為なり　人の敵は其家の者なるべし　我よりも父母を愛むは
三六 我に協ざる者なり我よりも子女を愛むは我に協ざる者なり　己の十字
三七 架を負て我に從はざる者も我に協ざる者なり　己の命を得る者は之を
三八 失ひ我ために命を失ふ者は之を得べし　賞賜を受るは我を受る也また



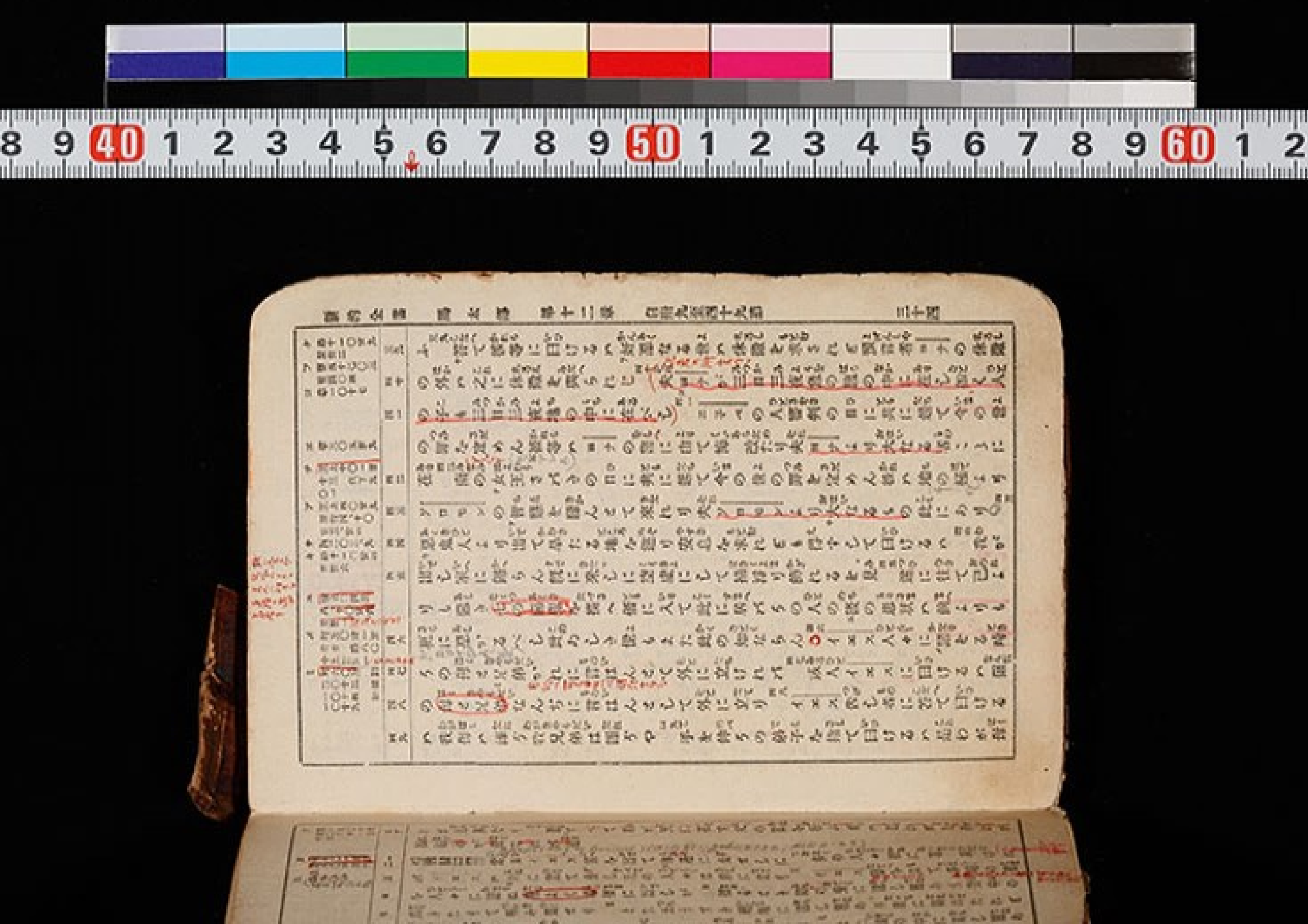
十　聖書おなるが為われ爾等に告んぬ　爾等よりしたがはるるなり　十一　大なんぢに告ぐ　女の産みたるものの中に洗者ヨハネよりまさるものなしとは　ヨハネ　十二　試に爾等に告んぬ　女の産みたるもののゆいまビプチスマのヨハネより
十三　大なるものへ惑らざりき　天國の門は今日にいたるまでヨハネの時より今に至るまで人ヤコブて天國を奪んとす　聖書たるものは之
十四　を取り　十五　ちれ　凡の預言者と律法の預言したるヘヨハネの時までなれば也　十六　若なんぢら我言を承ることを願はば　彼なり　耳ありて聞ゆ
十七　るものは聞べし○　是この世代何に喩んや　市場に坐して　われ
十八　ら笛ふけども舞踊をとらず哀をすれども哭ひたらず　十九　蓋
ヨハネ來て食ふことも飲ことをもせざれば人に遇れたるものなりと人ヤ言へり
人の子きたりて食ふことも飲ことをもなれば又人を惑ひ罪を負ふ人に
聖書あるものの友なりといふ然ども智慧の子に從て義とせらるる由○　二十
時イエス多の異能を行たまひたる諸邑の悔改めざるに由て責いひ



二 めたり　二パリサイの人これを見てイエスに曰けるは爾の弟子は安息日に
五 爲まじき事を行り　之に答けるは「ダビデ」とともに在しその飢しとき行
四 し事を未だ讀ざる乎　即ち神の殿に入て祭司の他は已るとも我にとるべ
五 し食ふまじき供のパンを食へり　また安息日に祭司は殿の内にて安息日
六 を犯せども罪なき事を律法に於て讀ざる乎　われ汝等に告ん殿より大な
七 るしの愛に在り　「われ祭祀を欲ずとは何なるこを知ば
八 罪なき者を罪せざるべし　られ人の子は安息日の主たるなり○　此を聞て
十 彼等の會堂に入しに　一手なへたる人ありければ彼等イエスを訴へん
十一 として之に問けるは安息日にはすこを爲べき乎　彼等に曰けるは汝等
の中に一の羊を有る者あらんに若その羊安息日に坑に陥らば之を擧上
十二 ざる乎　人は羊より優ること幾何ぞや然ば安息日に善を行は宜しにろ
十三 の人に謂て手を伸よと曰ければ伸せり即ち他の手の如く全
十四 人いでてイエスを殺さんと謀れり　イエスこを知て此を去しに多の人ゆこ



[illegible]もしならば[illegible]もまた[illegible]に[illegible]たり　また[illegible]士なるヨブ[illegible]らざれば[illegible]の[illegible]に入りの[illegible]を[illegible]んの[illegible]て[illegible]に其家を[illegible]ふべし[illegible]に[illegible]に[illegible]に



わが兄弟なり　五すべて我が父に在す父の旨を行ふものは是わが兄弟姉妹なり

一　時に耶蘇家を出て海邊に坐せしに　多の人々彼に集まりければ
二　彼乘船に登りて坐し凡の人々は岸に立り　三　イエスは譬を以て多くの事を
四　人々に語れり　曰よく聽に出しが　播るとき路の傍に落し種あり鳥飛來
五　たりて啄み盡せり　六　また土うすき磯地に落し種あり直に萌たれど
七　日の出しときなれしかば根なきが故に枯たり　八　また棘の中に落し種あ
九　り棘ちたりて之を塞げり　また沃饒に落し種あり實を結べること或は百
十　或は六十或は三十倍せり　十一　耳ありて聽ゆる者は聽べし　十二　弟
子等きたりて彼に曰ひけるは何故に譬を以て彼等に語り給ふや　答へて曰ひ
十三　けるは汝等には天國の奧義を知ることを賜はれど彼等には賜はれず
十四　凡ある者は與へられなほ餘り多くなるべし　凡なき者は其有る物さへ奪はるべし
十五　故に我譬を以て彼等に語るなり　彼等は視ても視ず聽ても聽ず悟ることなきが故なり
十六　彼等に成就せり　イザ

ゲの預言に聖書へ曰へるとし信らず聞くとも見ず　十五是この民目にて見耳にて聞
心にて悟り改めて我に歸るれんことを恐らの心を覆し耳を塞ぎ目を閉
たりそ恐らに聞へり　然ど聖書の目へ見聖書の耳へ聞ば故に幸なり　十七わ
れ誠に聖書に告んなの預言者と義人へ聖書ば見ところを見んとふたりも
ば見ことを得ず聞ばこころを聞んとしたりしば聞ことを得ざりき　十八
故に聖書譬話の譬を聞　天國の數を知て悟らざれば聖魔きたりて其心に
聞れたる種を奪ふ是路の旁に播たる種なり　二十磯地に播たる種へ是數を
聞て速かに喜び受れども　二十一已に根なければ暫時のみ數の為に忍耐あるひ
へ悩らるゝ事の起る時へ躓ち倒に陥くなり　二十二また棘の中に播たる種
へ是數を聞ども此世の思慮と富貴の誘に數み塞れて實らざる者なり　沃
地に播たる種へ是數を聞て悟り實を結ことなへ百倍あるひへ六十倍あ
るひへ三十倍するなり○　二十三また譬話を以て人へ天國へ人嫁
に喩ふ播たり　人々の睡たる間に其敵きたりて麥の中に毒子を播て去

ゲ　ヒ　ヒ　ヒ

り。鼠は之出て死たるとき狐も死れたり。主人の傍きたりて曰ける
へ主よ如には美麗な掛ざりもが如何して柱子ある乎。答に曰けるへ獅人
これを打り傍主人に曰けるへ如られ我ゆきて之を捉あつむるへ立が
おろらくへ獅子を捉あつめんとて獅をし其に捉べし。我ひおそ
なハひ以ない我がりいれの時よつ柱子な捉て捉んなに之な捉れ
我が倉に收よと別者に言ん○また時を経ずに鼠も曰けるへ天鵝も
の如し人これな見て如に捉ハ。鼠の捉よりへ小けれども其へ他の
り人にして天空の高きたり其時に者ほどの鼠となる也○また時を経
に聞けるへ天鵝その如し鼠これをとり三斗の粉の中に隠せ
殺すなり○イエス曰なもて凡て既等の多く人に聞たとへり
れ聞りおどかし。これ四日者に託て聞を聞き口の始より聞た
る者を目出さんと云れたるに聞せん為なり○また時にイエス人を約して言
に入り説教ずたりて曰けるへ聞の柱子の聞な我聞は聞たまへ之に答て

曰けるハ美設を播るハ人の子なり　「この世界なり　美設ハ是天國の諸子なり　稗子ハ惡魔の子孫なり　之をよく惡ハ惡魔なり收穫ハ世の末なり　刈者ハ天の使者なり　稗子の集て火に焚るが如く世の末に於ても是の如くなるべし　人の子ろの使者たちを遣して其國のゆゑりを凡て取ほそなる者また惡をなす人を集て　之を城の火に投入べし　其處にて哭泣切齒することあん　此とき義人ハ其父の國に於て日の如く輝かん耳あり聽ゆる者ハ聽べし○　また天國ハ隱たる寶の如し人みいだすとき之を隱し喜び歸り其所有を盡く賣てろの畑を買なり○　また天國ハ商人なる求んとする商人の如し　一の値たかき寶珠を見出さばろの所有を盡く賣て之を買なり○　また天國ハ海に投て各樣の魚を集るの如し　既に滿れば岸に曳あげ坐てろの善しものを器にいれ惡しものを棄るなり　世の末に於ても此の如ならん天の使者いでゝ義者の中より惡者を取わけ　之を世の火に投入べし其處にて哭泣切齒することあん○　イエス使者に曰けるハ此所

ア 太十八〇十六 馬十一〇廿六 路十六〇十七
イ 詩八〇十四 路十四〇十七
ウ 太十八〇十二 路十五〇廿四
エ 太十八〇十二 路十五〇廿四
オ 路十四〇十七
カ 太十八〇十九
キ 太十八〇十八 路十一〇廿四
ク 太十八〇十二 路十五〇廿四
ケ 太十八〇十二 路十五〇廿四
コ 太十八〇十二 路十五〇廿四
サ 路十一〇廿四
シ 路十一〇廿四
ス 路十一〇廿四
セ 路十一〇廿四
ソ 路十一〇廿四
タ 路十一〇廿四
チ 路十一〇廿四
ツ 路十一〇廿四
テ 路十一〇廿四
ト 路十一〇廿四
ナ 路十一〇廿四
ニ 路十一〇廿四
ヌ 路十一〇廿四
ネ 路十一〇廿四
ノ 路十一〇廿四
ハ 路十一〇廿四
ヒ 路十一〇廿四
フ 路十一〇廿四
ヘ 路十一〇廿四
ホ 路十一〇廿四
マ 路十一〇廿四
ミ 路十一〇廿四
ム 路十一〇廿四
メ 路十一〇廿四
モ 路十一〇廿四
ヤ 路十一〇廿四
ユ 路十一〇廿四
ヨ 路十一〇廿四
ラ 路十一〇廿四
リ 路十一〇廿四
ル 路十一〇廿四
レ 路十一〇廿四
ロ 路十一〇廿四
ワ 路十一〇廿四
ヰ 路十一〇廿四
ヱ 路十一〇廿四
ヲ 路十一〇廿四
ン 路十一〇廿四

なみなみしやに曰けるハ主よ然　イエス彼等に曰けるハ然ハ其人につ
いて教へられたる預言者へ劣しき物と謂き物とみな其時より出す系のまのやし○イエス
この譬なる言葉て此を出め　ろの邑にいたり自堂にて教しに人々驚み曰ける
ハ此人の智慧と異なる能ハ何處より來るや　これ木匠のすにあらすや其
母ハマリアろの兄弟ハヤコブとヨセフとシモンとユダにあらすや　ろの妹ハみな
我儕と偕に在にあらすや然るに此人の凡て此等の事ハ何處より來しや　既に躓
て之を怪イエス彼等に曰けるハ預言者ハ唯故郷ろの家の外に於て敬はれざる
ことなし　彼等に信なきに由て多の奇蹟を此に行ハすりき

時に領主ヘロデ其ころ分封の君ヘロデイエスの聖名を聞て　ろの僕に曰けるハ
是バプテスマのヨハネなり彼死より起りたり故に異なる能を行ふなり
前にヘロデろの兄弟ピリポの妻ヘロデの事に由てヨハネを捕へ縛て獄
に入たり　此ハヨハネヘロデに此婚を娶るハ宜しからすと云しに因て
ヨハネを殺まんと欲て民を畏れたる預言者とするにより殺すを懼たりし

ヘロデ誕生の日を祝へる時ヘロデヤの女ろの座上にて舞をなしヘロデを
七 悅ばせければ　例なる物にても求に任て予んとヘロデ之に誓たり　八 女ろ
の母の教ありしに因バプテスマのヨハネの首を盆に載て時に賜れと曰
九 王憂けれども既に誓たると座に列れる者の爲に予ることを命ず　十 時ち人
を遣し獄に於てヨハネの首を斬せ　十一 ろの首を盆に載て女に予ければ女へ
十二 之を母の所に持たり　ヨハネの弟子等きたりて屍を取これを葬り　イエス
十三 聞て舟に乘て人きけ所に往て其處を去さびしき處に往
十四 給ひしが衆人きゝて歩行にて彼に從へり○　イエス出て多の人を見て之
を憐み其病る者を癒せり　十五 日くるゝ時ろの弟子きたりて曰けるハ此ハ荒
野ところにして時もその遅し願ハくハ群衆に往て自ら食を求させん爲に人みを去しめ
十六 よ　イエス答に曰けるハ人々往すとも所なしなんぢら之に食ものを
十七 與へよ　答けるハ此處に五つのパンと二つの魚あるのみ　十八 イエス曰けるハ其ハ我に
十九 携ふ　群衆に命じて草の上に坐しめ五のパンと二の魚を取て天を仰て

[illegible]

[illegible]

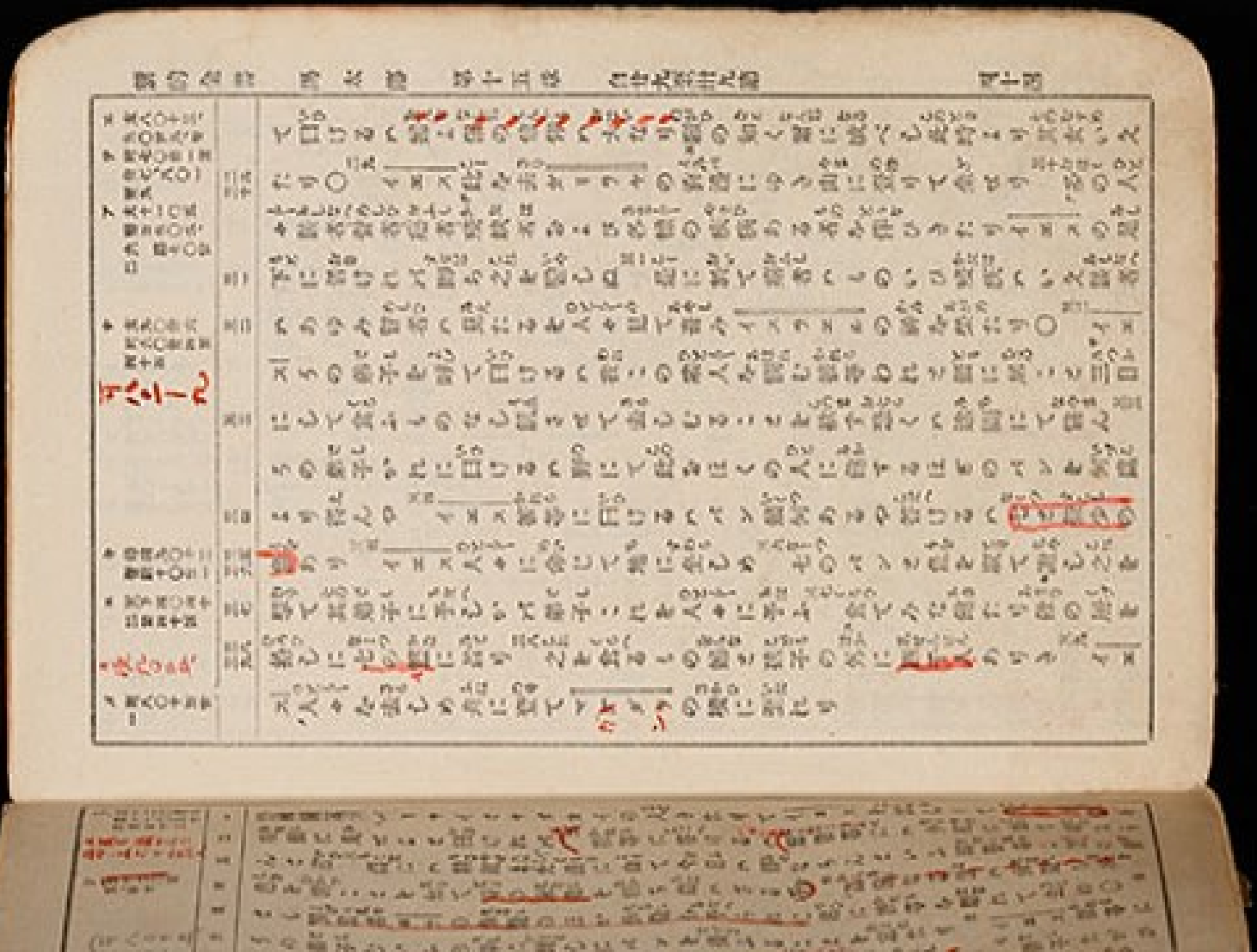
[illegible]

の人かイエスを聞て遠く四方に人を遣し見て病のある者を携へ來らしむ
彼
ろの去の後に問らんことをイエスに願へり問し者へ對ちみな直さしたり

二　時にエルサレムの學者とパリサイの人イエスに來て曰けるへ
二　爾の弟子古の人の遺傳を犯へ何故ゾ盥洗する時に其手を洗ざるも

若て答に曰けるへ爾曾へ亦なんぢらの遺傳によりて神の誡を犯へ何
故ゾ　ろれ誡いましめて爾の父母を敬へ又父母を詛ふ者へ誅さるべしと
宣給へり　然るに爾曾へ曰て凡て人父母に謂なんぢを賞よ可きものへ問物の
なりと云へハ　ろの父母を敬ハすとも可と云て爾曾遺傳により神の誡を
廢くせり　偽善者よイザヤハ能なんぢらに敬て預言し　此民ハ口にて我
に近き唇にて我を敬へども其心へ我に遠かり　人の誡を教として徒らに
我を拜ずと云り　イエス人かを召て彼等に曰けるへ聽て悟れ　口に入るい
のハ人を汚さず口より出るものハ人を汚すなり　弟子きたりてイエスに
曰けるへパリサイの人この言を聞て躓くを爾知か　答て曰けるへ我父天

の如の盲なるあるへみな陥るへし　彼等と盲人とは盲人の導びく盲者なり　十四
十五　ペテロ　イエスに向て曰　めしひのしの譬喩の説せよ　二人とも答に曰へし　十六
イエス曰ひるへ　汝等も未だ悟ざるか　口より出るものは心より出これ人を汚すもの也　惡心より出る所の惡念　十七
殺害　姦淫　淫蕩　偷盜　僞證　誹謗の人を汚すものなり　然れども手を洗ずして食ふは人を汚さず　十八
イエス　此を出てツロとシドンの地に往けるに　其地に住るカナンの婦　十九
さる時より曰けるは主よダビデの子よ我を憐み給へ我じすめ鬼に苦れて
甚く苦めり　イエス　一言も答に答さりしかは其弟子きたり請て曰けるは　二十
我儕の後より呼へるか故に彼を遣さ給へ　答て曰けるは　イスラエルの家
の迷へる羊の外に我は遣されす　きたり拜して曰けるは主よ我を助た　二十一
まへ　答けるは兒女のパンを取て犬に投與ふるは宜からす　然いひけ　二十二
は主よ然れとも犬しろの主人の膳より落る屑を食なり　茲にイエス答　二十三



一　パリサイとサドカイの人きたりてイエスを試んとて[illegible]を
二　戰慄に見せよと曰ければ[illegible]弟子に答へるべし晴雨にも夕紅に由て晴なら
三　んと言ふ　汝にハ朝紅まだ昏に由て今日ハ雨ならんといふ時者と空の氣
四　色を辨ことを知て[illegible]を辨ちえざるか　姦淫なる世ハ徴[illegible]を
五　さしもとめ[illegible]ヨナの徴のほか徴を與られに[illegible]に彼等を離れて去ぬ○
六　イエスかれ等に
七　其弟子むかふの岸に到しにパンを携ふることを忘たり
八　イエスこれを知て曰ける[illegible]心[illegible]パリサイとサドカイの人の酵[illegible]慎めよ　弟子たがひ
九　に論じて曰けるハ是パンを携へざりしゆへならん　イエスこれを知て曰け
十　るハ信仰うすき者よ何ぞ互にパンを携へざりしことを論ずる乎　未だ悟
十一　らざるか五千人に五のパンを予しとき殘ひろひしや幾籃これを記さるか　パリサイとサド
十二　のパンを予しとき殘ひろひしや幾籃これを記さるか　パリサイとサド
十三　カイの人の酵を慎めとハパンにつきて言るに非ざるを何ぞ悟らざる
十四　是に於て弟子ら酵にハあらずパリサイとサドカイの人の教を謹めと

に[illegible]ほへ[illegible]なり　太[illegible]なんぢらの時の事を思へ　人の事を
思へり　二三時イエス其弟子に曰けるは我われに[illegible]へんき試ふるへ己を
[illegible]て我に[illegible]へ　二四生命を保全さんとするものは之を失ひ我ため
に其生命を失ふものは之を得べけれ也　二五人全世界を得とも其生命を失も
と何の益あらん或また人何を以て其生命に易んや　二六子人の子は父の榮光
を以てその使徒と倶に來らん其時各の行に由て報ゆべし　二七眞に汝等に告
ん人の子の國を以て來るを見るまでは長に死もの中に死ざるものあるべし

一七　一日の後イエス、ペトロ、ヤコブ、その弟ヨハネとを伴ひ人を離て高
山に登り給しが　二二彼等の前にて其容貌かはり其衣日の如く輝き其衣は白
く光れり　二三モーゼとエリヤ現れてイエスと倶に語り　二四ペテロ答てイエス
に曰けるは主よ我儕ここに居るは善し若汝に適へよ我儕に三の庵を造せ
たまへ一は主のため一はモーゼのため一はエリヤの爲にせん　二五此いへ
る時ひかりある雲かれらを蔽ふ雲より出て曰けるは是は我愛子にして我

六 弟子なり　弟子これを聞て大におそれ俯伏たり

七 イエス來りて彼等に手を觸るゝとゝ曰るゝなれと曰けれ　其目を擧しに

八 惟イエスのほか一人をも見ざりき　○山を下る時にイエス彼等に命じて

九 人の子の死より甦るまでは汝等の見たる事を人に告ぐなかれと曰り　十 弟子とふて曰けるは何ゆへ學者の云るは先ず　十一 イエス答て曰けるは實にエリヤは來て萬事を改むべし　然れとも我なんぢらに

十二 告んエリヤは既に來りしに人これを知ずして彼に從ひ我の如く人の子もまた彼等より苦難を受べし　是に於て弟子はバプテスマのヨハネ

十三 を指て曰たまへるを悟れり　○惟思るはくの人の居ところに來りしに或人

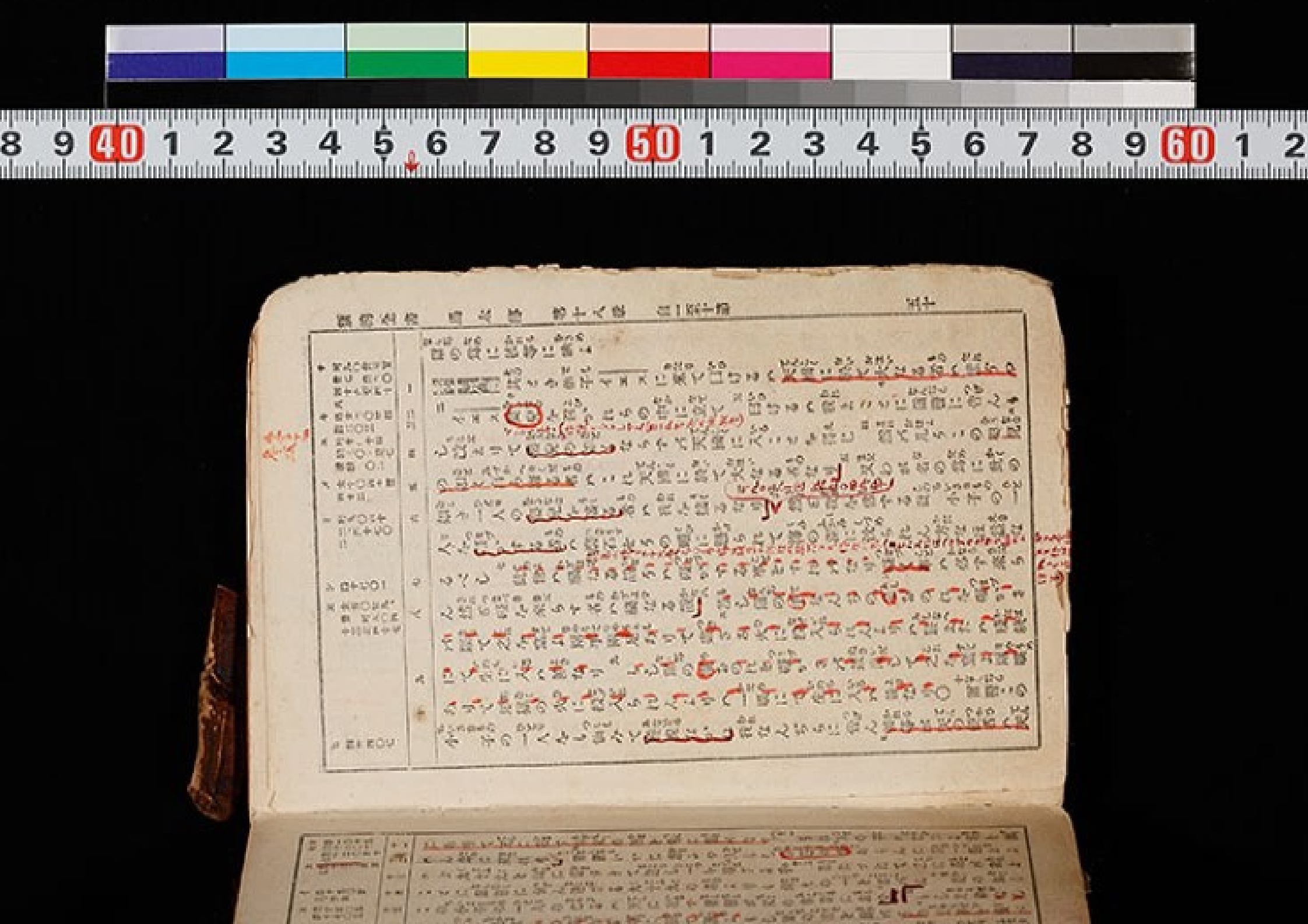
十四 イエスの所にきたり跪き　曰けるは主よ我子を憐みたまへ　Q 癲癇にて苦

十五 火に陥れ水に陥れしと云めり　之を汝の弟子に預たれと雖すこと能

十六 ざりき　十七 イエス答て曰けるは噫なき悖れる世なる哉われ何時まで汝等

十八 と倶に居んや我いつまで汝等を忍んや彼を我もとに携來れ　時にイエス

血を厭め給へば鬼いでゝ其子この時より癒たり　其とき弟子ひそかにイエスに來り曰けるは我等これを逐出すこと能へざりしは何故ぞ　イエス彼等に曰けるは爾信仰なきが故なり我まことに爾等に告んいと芥子の如き信仰あらば此山に移れよ移れと命ずるも移ぬべし　然ども此類は祈禱と斷食とにあらざれば出ることなし○　ガリラヤを周流たるとき　イエス彼等に曰けるは人の子人の手に渡され　人殺されて三日にして復活べし　弟子これを聞て甚く哀めり○　彼等カペナウムに來れるとき　稅を納る者ども　ペテロに來て曰けるは　爾師は稅を納ざるか　曰て　然り　ペテロ家に入しとき　イエスまづ彼に曰けるは　シモン　爾は如何おもふか　世界の王たちは誰より稅または貢を納るか　己の子よりか　他の者よりか　ペテロ彼に曰けるは　他の人より納なり　イエス彼に曰けるは　然ば子は免ることなし　然ども彼等を躓かしめざるために　海に往て釣を垂よ　初につる魚を取てその口を啓かば銀一を得べし　其を取て我と爾



十一 にありて天に在す父の前に失はるるなかるべしと
十二 汝等の子の一人だにほろびんことを欲せざるなり
十三 汝等いかに思ふや人もし百の羊あらんに其一匹迷
十四 ひて九十九を山に置ゆきて迷ひ居る者を尋ぬるに
十五 あたりては之に遇ばまことに汝等に告ん迷ざる九十九のゆゑよりも
十六 その一匹を尋ぬるを是の如く
十七 この小子の一人の亡るを天に在す父の御旨にあらず
十八 「もし兄弟なんぢに罪を犯ばなんぢ
十九 ただちにかれと論ずべし聞てもし汝の言を聞ばなんぢ
二十 兄弟を得たりもし聞ずば
二十一 もし聞ずば三人の口に由て汝をなし凡の言葉を定んが爲に一人二人
二十二 を伴ひ往 もしかれらにも聞ずば教会に告よ もしかれ教会にも聞ずば
二十三 かれを異邦人と税吏とのごとくなすべし」 我まことに汝等に告ん
二十四 凡なんぢらが地に束ぬることは天にても束ぬることとなり凡なんぢらが地に解くことは
二十五 天にても解ることなるべし また汝等に告ん もし汝等のうち二人
二十六 地にて何事にまれ願ふことに同心すれば我天に在す父
二十七 にかれらのために願はんことを
二十八 ことごとくなすべし
二十九 「二人三人我が名にて集まる所にはわれかれらの中にあり」
三十 ペテロ主に來りて曰

けるへ主よ償はせ我兄弟のわに罪なしすなはちなんぢ七次まで償ふべきか　イエスに曰けるへ汝に七次とへ曰じ　是故に天國へ王の
の僕と賞罰をなせるに　とするが如し　償べ給しとき　百萬金の負債したるものを
王に來りしに　僕ひとりかなかりければ之に命じて其身その妻子とあらゆ
る所有をみな償て償へと曰じ　その僕伏て拜し曰けるへ請われを寛し
給へよ皆償ふべし　是に於てその僕の主憐みて之を釋その負債を免した
り　其僕いでゝ己より銀一百の負債したる友に遇ければ之を執へ喉をと
り負債を償せと曰　その友足下に伏て願いひけるへ我を寛し給へよ償
ふべし　然るに之を肯へずして往その負債を償ふまで獄に入め
別の友その爲る事を見て甚だ憂み往てその主に告しかば　主が
れを召て曰けるへ惡き僕よ汝われに求しに因て我その負債を悉く免した
り　我なんぢを憐みし如く汝も憐むべきに非ずや　その主いかり
て負債みな償ふまで獄人に付せり　我なんぢ〻其兄弟を心より赦さ

すべて我が天の父の植ゑ給はぬ植物は皆根こぎにされべし

一　イエス其事の終へ給ひしとき　ガリラヤを去りて
二　ヨルダンの彼に渡りしに　多の人々從ひしかば彼處にて彼等を癒し給へり
三　パリサイの人きたりてイエスを試み曰けるは人なにの故に妻を出すべき
四　答へて彼等に曰けるは元始に人を造り給ひしものは之を男女
五　に造れり　是故に人父母を離れて其妻に合二人のもの一體となるべしと
六　なるを汝等讀ざるか　かくては彼等は二にあらず一體なり　神合せ給へる人
七　これを離すべからず　イエスに曰けるは何故モーセは離縁狀を與へて妻を出せとの
八　命じたまへるか　彼等に曰けるはモーセは汝等の心の堅なるに由て妻を
九　出すことを許したまへり　されど元始はかくの如にあらず　我汝等に
十　告ぐ　淫婦の故にあらで妻を出し他の婦を娶る者は姦淫を行なふなり　又
十一　いとされたる婦を娶る者も姦淫を行なふなり　弟子等イエスに曰けるは若
十二　し人妻に於て此の如くば娶ざるに若かず　彼等に曰けるは此事は人みな

婚姻することを禁ずべし　十二　されど彼の默より成れる
たる者人あり又人にせられたる宦人あり又天國の爲に
己れを宦人とせる者人あり之を受納ることを得るものは受納べし
○　其とき人々イエスの傳を聽て
斷らんことを求ひ　○　彼に接寄りければ曰ふ是なる童子
るの愛兒を許せ我に來ることを禁しむる勿れ天國になる者の如き者
なり　即ち彼等に手を按て彼を去ぬ　○　或人たりて彼に曰ける者
よ我かゞりなる者を問んが爲にいかの善事をなすべきか　彼に曰ける者
彼に曰ふ何ぞ我を善と稱するか　一人の外に善者なし　若し生に入んと願
へば誡を守るべし　彼こたへける者いかなる誡か　イエス曰ける者殺すな
る勿れ　姦淫するな　盜むな　僞の證を立るな　財の父と母を敬へ又己れの如く隣の
人を愛すべし　少者かれに曰ける者是みな我いまだ守りたるもの
なり　今の缺たるところ我にあるか　イエス彼に曰ける者全からんと願ふ者
へよ往て爾が所有を賣て貧者に與へ然れば爾天に財を有ん而して來り

我に從へ　三〇このことを聞て弟子たちは怒りをなせり　三一イエスこれを召て言給ふ　汝らの知るごとく異邦人の君たるものは人を支配し　三二また貴人は人に權を行ふ　汝らの間にかくあるべからず　汝らの中にて大いなるものになんと願ふものは　汝らの僕となるべし　三三人の子のきたりしは人に仕へられんためにあらず　人に仕へんためなり　また多くの人のあがなひとして己が生命を與へんためなり　三四二人の盲人道ばたに坐して聞くに　イエスの通給ふと聞て　主よ我らをあはれみたまへとさけぶ　三五群衆かれらを戒めて默せしめんとせしかども　かれらいよいよ大聲に呼て　主よ我らをあはれみたまへとさけぶ　三六イエスとまりてかれらを召て　我に何をなすべきかと問給へば　三七かれらいふ　主よ我らの眼の開かれんことなり　三八イエスかれらを憐みて　その眼に手を觸給へば　かれらたちまちに見えをあがめ　その後イエスに從ひたてまつりぬ

（馬可傳十章四六節以下）

（路加傳十八章三五節以下）

（馬可傳十章五二節）

（路加傳十八章四三節）

（馬可傳十章四六節以下）

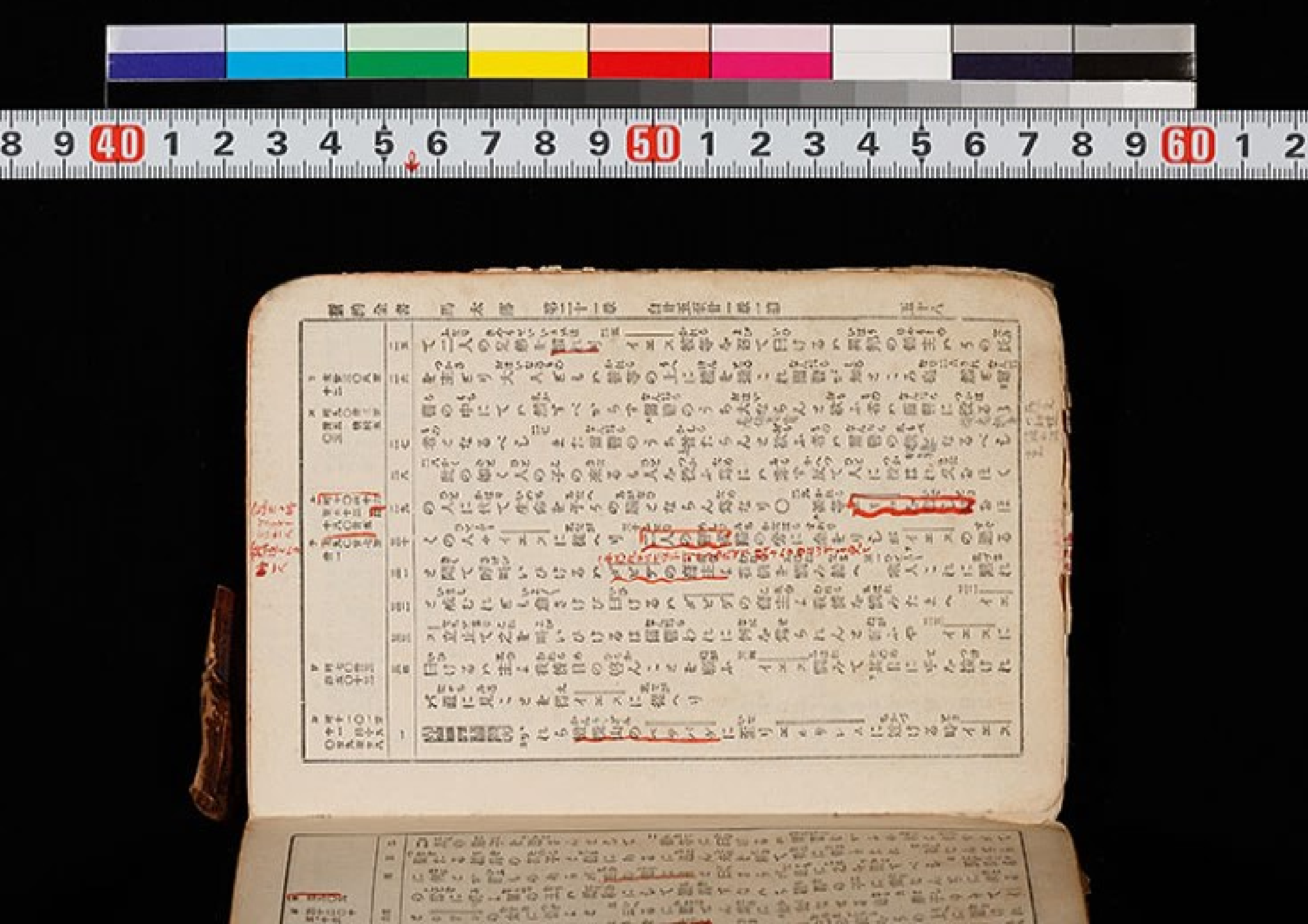
（路加傳十八章三五節以下）

（馬可傳十章五二節）

（路加傳十八章四三節）

人にハ一日に銀一枚を予んと約束なし葡萄園に遣せり　又たハ
上ノ時下刻に出て他に空く立るものを見て　汝も葡萄園にゆけ我汝の當を予ん
と彼等に曰ければ往ぬ　また　　ごろ出て亦の如く行り
　　ごろ出て亦いかの立るに遇て曰けるハ何ゆえ汝ら終日ここに空く立
　　之に答て曰けるハ我ら人ハ雇ハるゝなきに因てなり彼等に曰けるハ汝も
葡萄園にゆけ　　日暮るとき葡萄園の主人ろの家宰に曰
けるハ勞力たるものを呼て最に雇へるものを始とし先のものにまで賃を給へ
　　五時ごろに雇へられしものも來りて銀一枚づゝを受たり　先のものども
來りて我ハ多く受るならんと思ひしに亦銀一枚づゝを受　これを受て
主人を怨ていハくこの後來者の勞力たるハ一時ばかりなるに我
時くるしみを堪忍つさに當る我等と均しく之をなせり　主人ろの一人に
答て曰けるハ友よ我なんぢに不義をせず汝と銀一枚の約束をなしたるに
非ずや　汝のものを取て往われ此この後來者にも汝の如く予ふべし　我為

とおて我おもふ知く行へ定らず乎わが杯に飲て我の受わが受へき乎　此の如
く我の右へ左に坐わが与へ給へなるべし　然るに我の多くの者の多くの者の
者か少なき乎○　イエス、エルサレムに上るとき途間にて人を離れ十二弟子
を伴ひて彼等に曰けるハ　我師エルサレムに上り人の子ハ祭司の長と学
者等に賣されん彼等これを死刑に定め　また彼等ハ十字架に釘んが為に
賣人に賣へべし　又三日に甦へるべし○　此時ゼベダイの子等の母
の子と倶にイエスに来り拜して彼に求ること有ければ　之に曰けるハ何
か欲ふかイエスに曰けるハ此二人の我子を国の内に於て一人ハ右一
人ハ左に坐ることを命ぜよ　イエス答へて曰けるハ汝等ハ求ることを知
ず我が飲んとする杯を飲わが受へき乎　彼曰けるハ能ハ　イエス彼等に曰けるハ我に
るハ彼等いひけるハ能すべし　イエス彼等に曰けるハ我に右ハ我が
を飲また我うくるバプテスマを受べし然ども我が右左に坐ることハ我が
べきに非ず其わが父に備られたる者に限らるべし　十人の弟子これを聞



二人の弟子を諭さんとして　二彼等に曰けるハ汝等むかふの村に往やがて
繋たる驢馬の仔子と倶にあるに遇ん夫を解て我に來たれ　三若なんぢら
に向て何か言ものあらバ主の用なりと曰さらバ直に之を送すべし　四預言者
の言に成と曰の王ハ謙和にして驢馬すなハち驢馬の子に乘なんぢに來る
とシオンの女に告よと　五弟子ゆきて引
エスの命じし如くなし　六驢馬を牽きたり己の衣なるの上に置けれ
バイエスこれに乘り　七衆人おほくハ其衣を路に敷あるひハ樹枝を伐て路
にあぬ　八かつ前にゆき後に從ふ人々呼いひけるハ　ホサナ
の名に託て來る者ハ祝福あれ　九ホサナ　○　十イエスエルサレムに入
れるとき全城こゝろゝて騒いひけるハ是誰ぞや　十一衆人いひけるハ是ハ
ガリラヤのナザレより出たる預言者イエスなり　十二○　十三イエス神の殿に入て其
中なる凡の賣買する者を追出し　化錢ハ為換する者の机子を倒し　十四
盲に曰けるハ家ハ祈禱の家と稱らるべしと録されるに汝ら此これを

賊の巢となせり　十四　盲目なる人と跛に入てイエスに來りければ之を癒し
十五　ぬ　祭司の長と學者たち其行たまへる奇　等を見また兒童の宮にて呼
十六　トリめどもの苺ヘダヤと云を聞て怒る　イエスに曰けるへ彼等が言
ことを聞やイエス答て曰けるへ然り嬰兒乳嬰者の口の讃美を設たりと御
十七　されしを未だ讀ざる乎　遂に彼等を棄れ都城を出てベタニヤに往ちこに
十八　宿れり○　翌あさ都城へ歸るさ飢ければ　路の傍にある一の無花果の樹
十九　を見て其處に來りしに葉の外に何し見ざりしかば今よりのち果久も果を
結ぶことを得されと之に曰たまひければ無花果立刻に枯ぬ　弟子これを
二十　見て奇み曰けるへ無花果の枯ること例に絶や　イエス答て彼等に曰けるへ
二十一　眞まことに實者になんもし信仰ありて疑へすば此無花果にあるが如耳
ならず此山に向て動て海に入よと云とも成ん　且なんぢら
二十二　祈て信じて求る所ことごとく得べし　イエス殿に入て教たまふるとき祭司
の長および民の長たち來り曰けるへ何の權威を以て此等をなすや　誰こ

二四 の種族なる獄に予しや　二五 イエス答て彼等に曰けるは我も一言なんぢらに問
ん我にその事を告なば我も何の權威なもて之を行ふいふことを汝等に曰
べし　二六 ヨハネのバプテスマは何處よりか天よりか人よりか彼等たがひに
論じ曰けるは若し天よりと云へば然ば何ゆゑ信ぜざるかと云ん　二七 もし人よ
りと云へば我誹謗を畏る　蓋みな人を預言者と爲ばなり　二八 遂に答て知す
と曰イエス彼等に曰けるは我も何の權威を以て之を行ふか汝等に語らじ　二九
汝等いかに意ふや或人二人の子ありしが長子に來りて曰けるは子よ今日
わが葡萄園に往て働け　三〇 答て曰ふ我往べしと曰しがのち悔て往たり　三一 また次子にも
前の如く曰けるに答て曰ふ我往べしと曰しが遂に往ざりき　三二 此二人のも
の我が父の旨に從ひし彼等いひけるは長子なり　三三 イエス彼等に曰けるは眞
に汝等に告ん　稅吏と娼婦とは汝等に先に神の國に入べし　三四 夫ヨハネ
義道をもて來りしに汝等これを信ぜず稅吏娼婦は之を信じたり汝等これ
を見てなほ悔改めず彼を信ぜざりき○　三五 また一の譬を聞あるべし家の主人

の弟子共にかのヘロデの党人をもて曰るを聞　イエスを試へんと試ひ語もがら曰ひ
を為たり　曰人々かれを問ひ曰ひとすれば
イエスの復答に対てまた問なかりけるに　天国へ民王の子の
場に　たとへ　曰ひ　曰ひ　曰ひ　曰ひ　曰ひ　曰ひ　曰ひ　曰ひ
ど問ひきたることを聞よ　父ほかの妻を娶さんとして曰けるへ兄弟
すでに死れり兄弟なかりて妻を娶りたれば死に臨と曰
たるあるに　然ども彼等どもりとしてまた一人へ己の国にゆき一人
へ己の畑に往り　他の者等へらの捕えられ曰しかして殺せり　王これを
聞て怒り軍勢を出して其殺せる者ども火らの色を焼たり　是に於てう
の僕等に曰けるへ婚礼すでに備れども請たる者へ客となるに堪るな
れば　国に往て道ほとのある場に請け　うの伏路に出て遇る者を
悉く招ければ婚礼の客充満　王客を見んとて来りけ
るに茲に一人の礼服を着ざるあるを見て　之に曰けるへ友よ如何なれ

パ人間なるをもして武士に來る予かれ思ひたり　十四汝に天國に曰けるヘ誠の
手足を縛りて外の幽暗に投いとせ其處にて哭泣と切齒すること有ん　十五
多くの召れたるに撰ばれたるものは少し　十六此時パリサイの人いで
て如何してか彼を陷らせんと謀り　十七あるかたへ之の言を曰して
云せけるハ師よ我等汝は眞なるなり眞をもて神の道を教へたまへし偏らざ
ることなを我等ハ知るの故に由て人を取ざらんを　然ハ汝の意ハ如何に
るハ善や否や納いかに意ふか我等に告よ　十八イエスその惡を知て曰けるヘ
偽善者よ何ぞ我を試むるや　其の納錢を我に見せよ彼等デナリ一をイエ
ス に携來りしに　二十之に曰けるハ此像と誰の銘か　二十一答てカイザルなといふ
是に於てイエス彼等に曰けるも然ハカイザルの物ハカイザルに歸しまた
神の物ハ神に歸すべし　二十二彼等之をきゝ奇ともてイエスを去ゆけり○　二十三復
生なしと言なせるサドカイの人この日イエスにきたり問て　二十四曰けるハ師
よモーセの云るに人もし子なくして死ハ兄弟ろの妻を娶りて子をうみ兄

弟の後を繼すべしと　二五　然に我輩の中に兄弟七人ありしが兄めとりて死子
なきは妻に其妻を次子に讓れり　二六　その二の三の七まで皆然す　二七　後つ
ひに婦もまた死たり　二八　蘇るときは彼七人のうち誰の妻と爲べきか是み
な彼を娶しなれば　二九　イエス答て曰けるは汝等聖書をも神の能をも
知ざるに由て謬れり　三〇　蘇るときは娶ることなく嫁ることなく天にある神の使
の如し　三一　死しものの蘇ることに就ては汝等に神の告たまひし言に　三二　我はア
ブラハムの神イサクの神ヤコブの神なりとあるを未だ讀ざるか　神は死しものの神にあらず生るものの神なり　三三　人々これを聞て其教を驚けり○
三四　イエスサドカイの人をして口を塞がしめたりと聞てパリサイの人一處に
集りけるが　三五　その中なる一人の教師イエスを試みんとて問けるは
師よ　三六　律法の中にいづれの誡か最大なるや　三七　イエス答けるは汝心を盡し
精を盡し思を盡して主なる汝の神を愛すべし　三八　これ第一にして大なる誡なり　三九　二も
亦これに同じ己の如く隣人を愛すべし　四〇　此二の誡に

に問り○パリサイの人の集れる時イエス彼等に問て曰けるは　曰　何を
リストについて如何おもふ乎これ誰の子なるか彼等イエスに曰けるは
ビデのなり　彼等に曰けるは然ばビデ靈に感じて何故これをまと稱
へし乎ビデ曰　主わが主に曰けるは我なんぢの敵を汝の足下となすま
で我みぎに坐すべしと　然ばビデ既に之を主と稱たれば如何ぞ彼の子な
らん乎　誰一人これに答ふること能はず　日より敢て問ふことなかり

[illegible]時イエス人々と弟子とに告て曰けるは　二　學者とパリサイの
人へモーセの位に坐す　故に凡て彼等が汝等に命ずることを守て行ふべし
然ど彼等が行ふ所を爲ること勿れ蓋かれらは言のみにして實なきなり
また彼等は負がつ重がたき荷を束て人の肩に負せ己は一の指をもて之を
動すことすら好ず　彼等の行へは凡て人に見れんが爲なり　曰　彼等は
經帷子の廣き大にし　また宴會の上席會堂の高座　市上の敬安人か

八　より少きと思られんことなかむ

九　自己の父に一人なるから天に在すなり

十　にあるなり　自己の父に一人なるから天に在すなり

十一　また弟子の自己を愛することを自己なんぢらの師に一人なはちキリスト

十二　なり　自己のうち大なるものは自己の僕となるべし

十三　卑ぜられ自己を卑するものは高くせられん

十四　なんぢら禍なるかな書記なる

十五　るかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

十六　人の前に閉て自己は入ることを得ざるなり　なんぢら禍なるかな書記なる

十七　パリサイの人と偽なんぢら禍なるかな盲なる導者

十八　なるパリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

十九　しかれども殿の金をいはく誓を立ることなかれ

二十　由て殿を誓ふものは殿と殿に住給ふ者とを誓ふなり

二十一　また祭壇を誓ふものは祭壇と祭壇の上なる物とを誓ふなり

二十二　また天を誓ふものは神の座と座に坐給ふ者とを誓ふなり

二十三　なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二十五　パリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二十六　なるパリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二十七　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二十八　パリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二十九　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

五十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

五十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

五十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

五十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

五十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

五十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

五十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

五十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

五十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

五十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

六十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

六十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

六十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

六十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

六十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

六十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

六十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

六十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

六十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

六十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

七十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

七十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

七十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

七十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

七十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

七十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

七十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

七十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

七十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

七十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

八十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

八十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

八十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

八十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

八十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

八十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

八十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

八十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

八十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

八十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

九十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

九十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

九十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

九十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

九十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

九十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

九十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

九十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

九十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

九十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百二十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百二十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百二十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百二十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百二十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百二十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百二十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百二十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百二十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百二十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百三十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百三十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百三十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百三十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百三十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百三十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百三十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百三十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百三十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百三十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百四十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百四十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百四十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百四十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百四十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百四十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百四十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百四十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百四十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百四十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百五十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百五十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百五十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百五十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百五十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百五十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百五十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百五十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百五十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百五十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百六十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百六十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百六十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百六十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百六十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百六十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百六十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百六十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百六十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百六十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百七十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百七十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百七十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百七十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百七十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百七十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百七十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百七十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百七十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百七十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百八十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百八十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百八十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百八十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百八十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百八十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百八十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百八十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百八十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百八十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百九十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百九十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百九十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百九十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百九十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百九十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百九十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百九十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

百九十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

百九十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百二十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百二十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百二十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百二十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百二十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百二十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百二十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百二十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百二十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百二十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百三十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百三十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百三十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百三十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百三十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百三十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百三十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百三十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百三十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百三十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百四十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百四十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百四十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百四十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百四十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百四十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百四十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百四十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百四十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百四十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百五十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百五十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百五十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百五十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百五十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百五十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百五十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百五十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百五十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百五十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百六十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百六十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百六十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百六十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百六十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百六十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百六十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百六十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百六十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百六十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百七十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百七十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百七十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百七十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百七十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百七十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百七十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百七十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百七十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百七十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百八十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百八十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百八十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百八十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百八十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百八十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百八十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百八十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百八十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百八十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百九十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百九十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百九十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百九十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百九十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百九十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百九十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百九十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

二百九十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

二百九十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百二十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百二十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百二十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百二十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百二十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百二十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百二十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百二十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百二十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百二十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百三十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百三十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百三十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百三十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百三十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百三十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百三十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百三十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百三十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百三十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百四十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百四十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百四十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百四十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百四十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百四十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百四十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百四十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百四十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百四十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百五十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百五十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百五十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百五十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百五十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百五十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百五十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百五十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百五十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百五十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百六十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百六十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百六十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百六十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百六十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百六十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百六十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百六十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百六十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百六十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百七十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百七十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百七十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百七十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百七十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百七十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百七十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百七十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百七十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百七十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百八十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百八十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百八十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百八十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百八十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百八十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百八十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百八十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百八十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百八十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百九十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百九十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百九十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百九十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百九十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百九十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百九十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百九十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

三百九十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

三百九十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百二十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百二十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百二十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百二十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百二十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百二十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百二十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百二十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百二十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百二十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百三十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百三十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百三十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百三十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百三十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百三十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百三十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百三十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百三十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百三十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百四十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百四十一　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百四十二　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百四十三　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百四十四　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百四十五　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百四十六　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百四十七　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百四十八　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百四十九　パリサイの人と偽なんぢらいはく誓を立ることなかれ

四百五十　なるかな書記なるパリサイの人と偽なんぢら禍なるかな書記なる

四百五十一　パリサイの人と偽なんぢ

て誓もと言べからすと　愚にして聖なる者よ金と金を産からしむる殿と
十八　へ孰か尊き　又いふ人もし祭の壇を指て誓もと事なし其上の献物を指て
誓もと言べからすと　愚にして聖なる者よ献物と献物を産からしむる祭
十九　の壇とへ孰か尊き　二十　られ祭の壇を指て誓ふ者へ祭の壇および其上の凡の
物を指て誓ふなり　二一　また殿を指て誓ふ者へ殿および其内に在す者を指て
誓ふなり　二二　また天を指て誓ふ者へ神の寶座および其上に坐する者を指て
誓ふなり○　二三　惑なんぢら禍なるかな聖なる學者とパリサイの人よ蓋な
んぢら薄荷茴香孜然の十分の一を取納て律法の最も重き義と憐と信とを
棄置へ是これ行ふべきものにして他のものを棄べからざる者なり　二四　盲者なる向導者
よ蠅を濾出して駱駝を吞しの山　二五　あふ惑なるかな聖なる學者と
パリサイの人よ盃皿を外に洗して内には貪婪と放恣とに充たり　二六
盲者なるパリサイの人よ盃皿を先に内を洗せよ然すれば外も亦き
よまるべし○　二七　惑なんぢら禍なる學者とパリサイの人よ蓋

の白く塗たる墓に似たり外に美しく見れども内は死骸と諸の汚穢にて充
此の如く聖書もまた外へ義く人に見れども内は偽善と不法にて充
なんぢら偽なるかな學者なるパリサイの人よ聖書の墓を
て義人の墓を飾れり　又いふ我禍しも先祖の時にあらば預言者の血を流
すことに列せざりしなと　然バ聖書の預言者を殺しもの血なることを自
ら證す　なんぢら先祖の量を充せ　蛇の類よ聖書いかで地獄の刑罰を
免れんや　是故に我聖書に預言者と智者と學者を遣すに彼へ之を殺し
又十字架に釘或へ其會堂にて之を鞭ち或へ邑より邑へ追ひ
なるアベルの血より取と祭の壇の間にて聖書が殺しバラキヤの子
ザの血に至るまでなに絶もたる義人の血へ凡て聖書に歸來らんが爲なり
わが誠に聖書に告ん此等みな此代に報來るべし
エルサレムよ聖書者を殺し聖に遣はるゝ者を石にて擊しものよ鶏の雛を翼の
下に集るが如く我なんぢの子を集んとせしこと幾次か然も聖書へ好ず

りき　殺より聖殿の家へ荒地となりて遺れん　われ爾等に告んぢの名に就て來る者へ多なりと聖殿の家んとき來るまでは今より我を見ざるべし

[illegible]

一　イエス殺より出ければ其弟子すゝみて聖殿の構造を我に顯さんとしたりしに

二　イエス答に曰けるは聖殿すべて此等を見ざるか我まことに爾等に告ん重疊に一の石も石の上に殘れずして崩るじ

三　イエス橄欖山に坐し給へるとき弟子ひそかに來りて曰けるは何の時にこのことあるや

[illegible]

四　イエス答て爾等に曰けるは爾人に欺かれざるやうに

五　蓋なほくの人わが名を負きたりわれはキリストなりと云て多の人を欺くべし

六　又なんぢら戰さ戰の風聞をきかん然も慎て驚るなかれ此等の事は必なり然ども末期は未だならず

七　民は民に國は國に攻め鬪ん處々に飢饉疫病地震あらん

八　是みな産の始なり

九　其とき人なんぢらを患難に付し殺すべし又なんぢら我名の爲に萬民に憎れん

十　其とき多のもの躓かつ

互に相もて互に慰むべし　また聞預言者あはく惑てその人をそしり　また
はつるに因て多の人の愛情ひやかにはべし　惑ひまどはされる
ることを聞き　また天國の福音を異民に說せん爲に遣せられ
たんとの事聞いたるべし　惑故に預言者パロエルに於て說たる所
の言葉にくらべやすしの所に於て見パ預言者よく聞かんとし　時にパロエルに
をる者ハ山に隱れよ　遠しに在るものハ其家の物を取んとて下る勿れ　田
にをる者ハ其衣を取んとて歸る勿れ　其日にハ孕める者と乳を飲する婦
ハ禍なる哉　汝等また冬に逃ることなかれん爲に祈れ　其とき
大なる患あり世の始より今に至るまで有ざりき又後に
も有じ　若その日を少くせられずハ一人として救るる者なからん然ども選れ
し者の爲に其日ハ少くせらるべし　其時もしリストは此處にあり彼處に
ありと謂ひにいふ者あるとし惑ふる勿れ　ちハ謂ふリストの假預言者たち
起て大なる徵と異とを現はしもし能ハバ選れたる者をも欺くことを得ハ之を欺くべ

二七 れば也　われ初めに汝等に之なき　若キリスト野に在さいふ者あるとも
二八 出るなれ室に在さいふ者あるとも信ずなれ　ろは電の東より出て西にえ
二九 で閃くが如く人の子も來るべければ也　ろれ死のあつまる所
三〇 に鷲あつまるべし　其さき人の子の表天に現るまた地上にある諸族ハ哭
三一 き人の子の能と大なる榮光をもて天の雲に乘るを見ん　又ろの
三二 喜み吐人の子の聲を大なる喇叭をもて天の四方より其選
三三 ばれし者を集むべし　○夫なんぢら無花果樹に由て譬を學べ其枝すでに柔
三四 かにして葉萌めば夏の近きを知　其の如く萬事も見て此ものの來るを見ば時
三五 ちかく門口に至るを知　われ眞に汝等に告ん此等の事ことごとく成るまで
三六 此世ハ滅ざるべし　天地ハ滅ん　然ども我言ハ滅じ　ろの日ろの時を知もの
三七 なしわれ父のみ天の使者も知ざるなり　ノアの時の如く人の子の來
三八 るもかくあらん　ろれ洪水の前ノアが舟にいる日まで人や飲食娶嫁を

して　洪水の來りて悉く之を滅すまで知ざりき　人の子も亦かくあらん
其とき　二人畑に在んに　一人は取れ　一人は遺さるべし　二人の婦ひ
臼に一人は取られ　一人は遺さるべし　是故に　汝等の主いつれの時きたるかを知ざれば　眠らずして　汝等これを知もし家の主人は　すでに何
の時きたるかを知ば　其家を守て　破らすまじ　故ば　汝等も　豫備をよ
ざる時に　人の子きたらんと　思はなり　時に及て　僕を　僕等に　予るする　爲に
主人　おろの　僕等の　上に　立たる　忠　實にして　賢　なる　僕　おろの　主人の　來
らん時　かくの如く　勤るを　見るる　僕は　幸なり　我まことに　汝等に　告ん　其　所
有　盡　に　主人　おろの　僕　に　予る　若　おろの　惡　僕　なるのみ　心に　我が　主人の　來るは　遲
んと　思ひ　おろの　僕等を　打　始きて　酒に　醉たる　者とも　共に　飲　食し　始なば　其
おろの　僕の　主人　思もよらざるの　日　知らざるの　時に　來りて　之を　厳　責し　其　報を
僞者と　同　うすべし　其　處にて　哭　泣　する　こと　有ん
此　時　天國　は　其とき　天國の　童女　十人　燈　を　執て　新郎を　迎に　出る　十人の　童女に　比ふべし

二　ろの中の三人の智く五人の愚なり　愚なる者の其燈をとるに油を携へ
ざりしが　智き者の其燈と共に油を器に携へたり　新郎おそかりければ
皆眠むして臥れり　夜半ごろに呼びて新郎きたり出て迎へよと叫ぶありけ
れば　この童女ども起きて其燈を整へたるに　愚なるもの智き者に曰
ける　我等の燈消んとす　願くは汝の油を我等に分ち給へ　智きもの答
て曰ける　我等と汝等とに足くは足まじ　寧ろ賣者に往て己が為に買か
れら買んとて往しとき新郎きたりければ備たる者は之と倶に婚礼に
入しかば門は閉られたり　後て餘の童女きたりて曰ける　主よ主
よ我等の為に開たまへ　答て我まことに汝等に告ん　我は汝等を知ずと曰
り　故に汝等ものみ知ずして居れ　時も知ざれば○　また天國は
人の如しせんとして其僕をよび所有を彼等に授るが如し　人の如く
に銀五千或者には二千或者には一千を予へ各人に
其行せり　五千の銀を受し者は往て之を貿易し他に五千を得たり　二

Talent consisted of 3,000 shekels (each equal to 1 oz. troy).
There are 50 shekels of shekels (heavy and light).
The heavy weight talent would be about £2,000, the light about £1,000.

十八 手を交しもまた他に二千を得たり　十九 然るに一千を受しものは往て地を掘
り　その主の金を匿せり　久しくして彼らの僕等の主がへりて彼等と合計せしに
二十 五千の銀を受しものは他に五千の銀を携来りて主に我に五千の銀を授
し給へ　見給へ我他に五千の銀を儲たりと曰ければ　主かれに曰けるへあゝ善いかな
二一 善き僕なる哉汝は多くのものに忠なりしなんぢは多くのものを管らせん汝の主人の歓
喜に入れ　二千の銀を受しものきたりて曰く我に二千の銀を授し給へ他に二
二二 千の銀を儲たりと曰ければ　主かれに曰けるへあゝ善いかな忠なる僕なんぢ
二三 多くのものに忠なりしを管らせん汝の主人の歓喜に入れ
二四 また一千の銀を受しものきたりて曰けるは主よ我は人にせ酷き人なるを知
二五 れり　汝の播ざる所より収ること汝の散ざる所より集ることを知へし　故に我恐てゆきて
二六 汝の一千の銀を地に蔵し匿りやなんぢ汝の物を得たり　その主こたへて曰けるは惡
二七 き怠惰なる僕よ我が播ざる所より収ること我が散ざる所より集ることを知へし　故
に我が金を貨物師に与へるべきなり然は我が帰たるとき本と利とを受

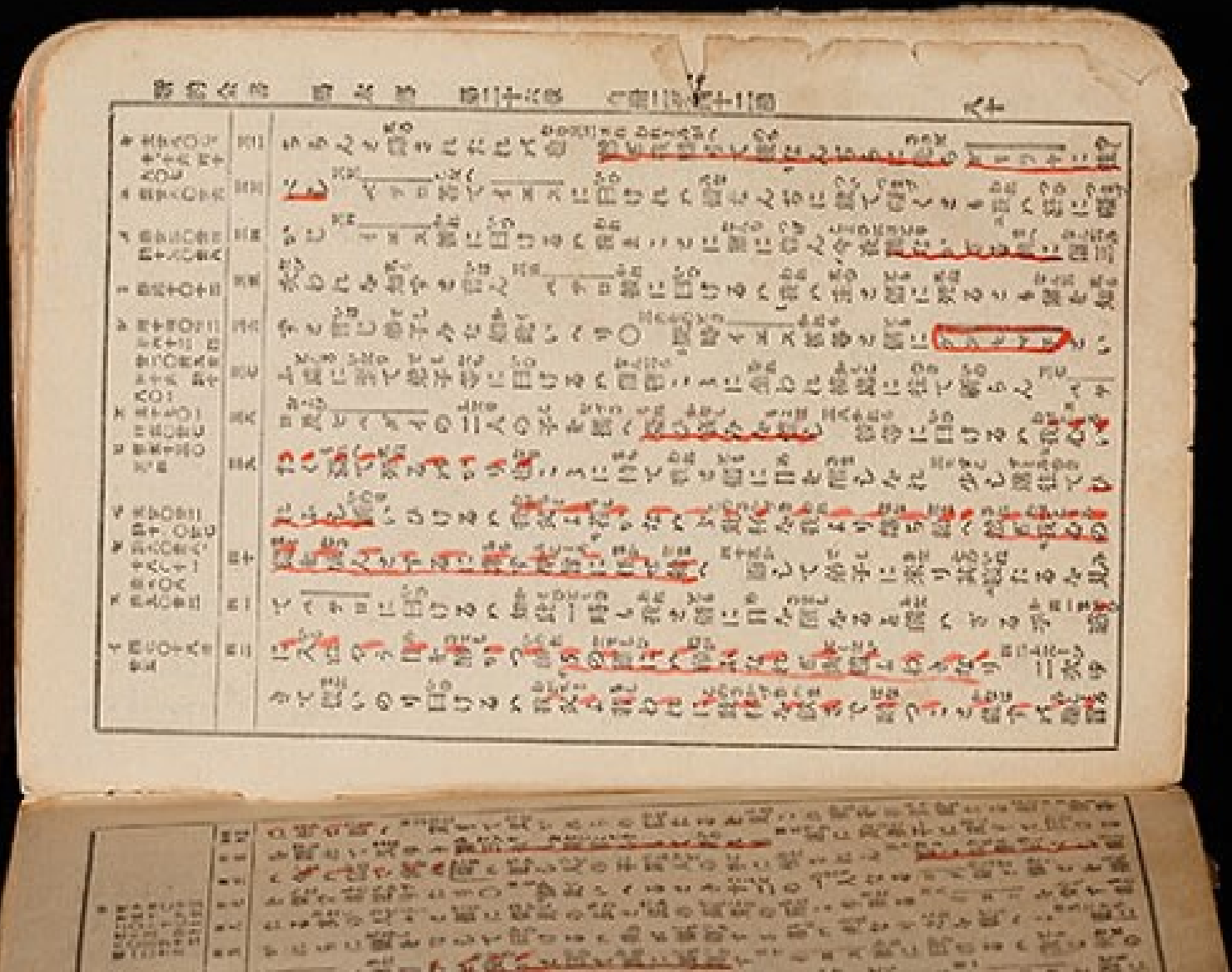
べし　是故に彼の一子の銀を取て十子の銀ある者に予よ　かれ有る者は
予られて餘りあらんかれ有る者へらの有る所なんを取ん　無益なる僕を
外の闇暗に投やれ其處にて哭泣切齒することあらん○　人の子榮光の
光をもて諸の聖なる御使ども皆彼と共に來る時へらの榮光の位に坐し
諸の國民を彼の前に集め羊を牧者の離羊と山羊とを別が如く彼等を別ち
山羊を左の方に置こと　而て王ろの右にある者に云ん我父に蒙る者よ
來りて創世より汝等のために備られたる國を嗣　蓋なんぢら我が
飢し時われに食せ渴もさ我に飲せ旅せし時われを宿らせ　裸なりし時
われに衣せ病もさきわれをみまひ獄に在しさきに我れ來なり　是に於て
義者われに答て云ん主よ何時なんぢの飢たるを見て食せまた渴たるに飲
しめ　何時旅人なるを見て宿らせ又裸なるに衣もつ　何時主の病
また獄に在るを見て我に來りし乎　王こたへて彼等に曰ん我まことに汝等
にいふん我に最も小き兄弟の最小者の一人に行へるは即ち我に行へるなり

四一 既にまたなにをなるかに曰ん測せらるべきかと我々離れて祈禱と其弟子
四二 の所に歸たるまさるに入よ 蓋なんぢら我が眠も時われに食せず汝も
四三 とき我に眠せず 眠せし時われを寄らせず汝なりも時われに安す病また
四四 眠に入りし時われを離されバ 是に於て主また歸て曰んまと所時なん
四五 ちの眠また憩また此し失敗また病また賊に來を見て手にゆだりもの 其
四六 とき主こたへて彼等にいはん我ここに眠りに來んと見よ賊の一人に所
四七 はざるへ賊ち我に所へざりもの 此等のまんなき賊にいり我者に
四八 なきなかに入ども

四九 [illegible] 但イエスこの際の言を背変りて其弟子に曰けるへ 二日共の
五〇 ちの賊なるへ賊が知ところ為られ人の子へ十字架に釘られん為に相
五一 さるべも 此とき祭司の長および民の長老等ヤハを元る祭司の長の邸
五二 の庭に集り 謀計なしてイエスを欺へ殺さんと共やに謀いひけるへ 祭
五三 の日にハ行べからず恐くへ民の中に亂おこらん○ イエスベトニヤの

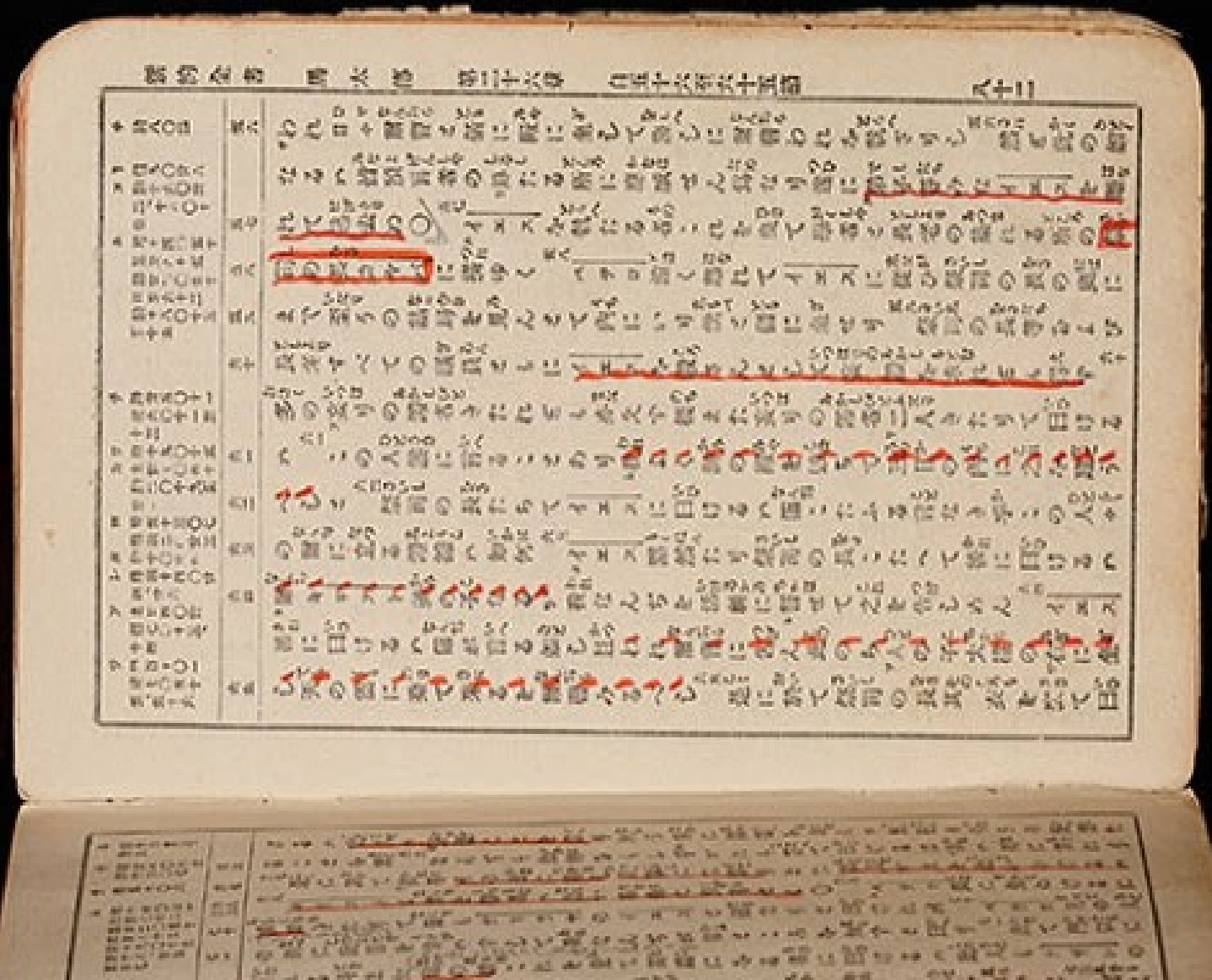
七　調入ることの家に居たまへる時　ある婦人石の香油の壺を持
八　てイエスの食する所に携来り其首に灌しかば　弟子等これを見て憤を含い
九　ひけるは此費毀のことを何へ何故ぞや　若これを賣ば多の金を得て貧者
十　に與すことを得ん　十　イエス知て彼等に曰けるへ何ぞ婦を困すや　我へ
に善事を行へるを　貧者へ常に汝等と倶にあれど我へ常に汝等と倶に
十一　在ず　十二　我がこの香油を我身に灌しは我の葬の爲に行る也　われ誠に汝
十三　等に告ん天の下いづくにても福音の宣傳らるる所にへ此婦の行しも亦しるの
記念の爲に宣傳らるべし○　十四　其とき十二の弟子の一人なるイスカリオテの
十五　ユダと云るもの祭司の長等の所に往て曰けるへ　汝なんぢらに我を賣
十六　ば何と予るか　彼に銀三十にて賣もたり　彼時よりイエスを賣さんと機
を窺ひ　○　十七　酵なきパンの祭の初日に弟子イエスに來り曰けるへ何所へ我ら
の汝等の爲に例年に食ふべき羔　十八　イエス曰けるへ京城にいりて某に語て
いへ師いふ我期近きりれば弟子と倶に己が家に行べし

と　十八　弟子イエスに命ぜられしごとくして過越の食を備ふ　十九　日くるとき　十　イエス
十二弟子と倶に席に就　二十　食する時いひけるは眞まことに汝に告ん　二十一　汝
のうち一人我を賣なり　二十二　甚くいたく歎て各イエスに曰ひけるは主よ我
なるか　答て曰けるは我と倶に手を盆に浸るあは我を賣す者なり　二十四
人の子は己について記されたるごとく逝ん但人の子を賣す者は禍なるかな
その人は生まれざりしならば良かりしなり　二十五　我を賣すユダ答て曰ける
へラビなるやとに曰けるは汝の言るごとし　二十六　彼ら食する時イエスパン
を取て祝し之を擘き弟子に與へて曰けるは取て食へこれは我身なり　二十七　よ杯
を取て謝し彼等に與へて曰けるは皆みな此杯より飲　二十八　これ我が約の血にして
罪を赦さんとて衆の人の爲に流るるものなり　二十九　われ汝に告ん今より
後なんぢらと倶に新しき物を父の國に飲んまでは再びこの葡萄にて
造れる物を飲じ　三十　かれら歌を謳てのち橄欖山に往り　三十一　其時イエス彼等
に曰けるは今夜なんぢら悉われに躓て躓かん蓋われ牧者を擊ば羊の群

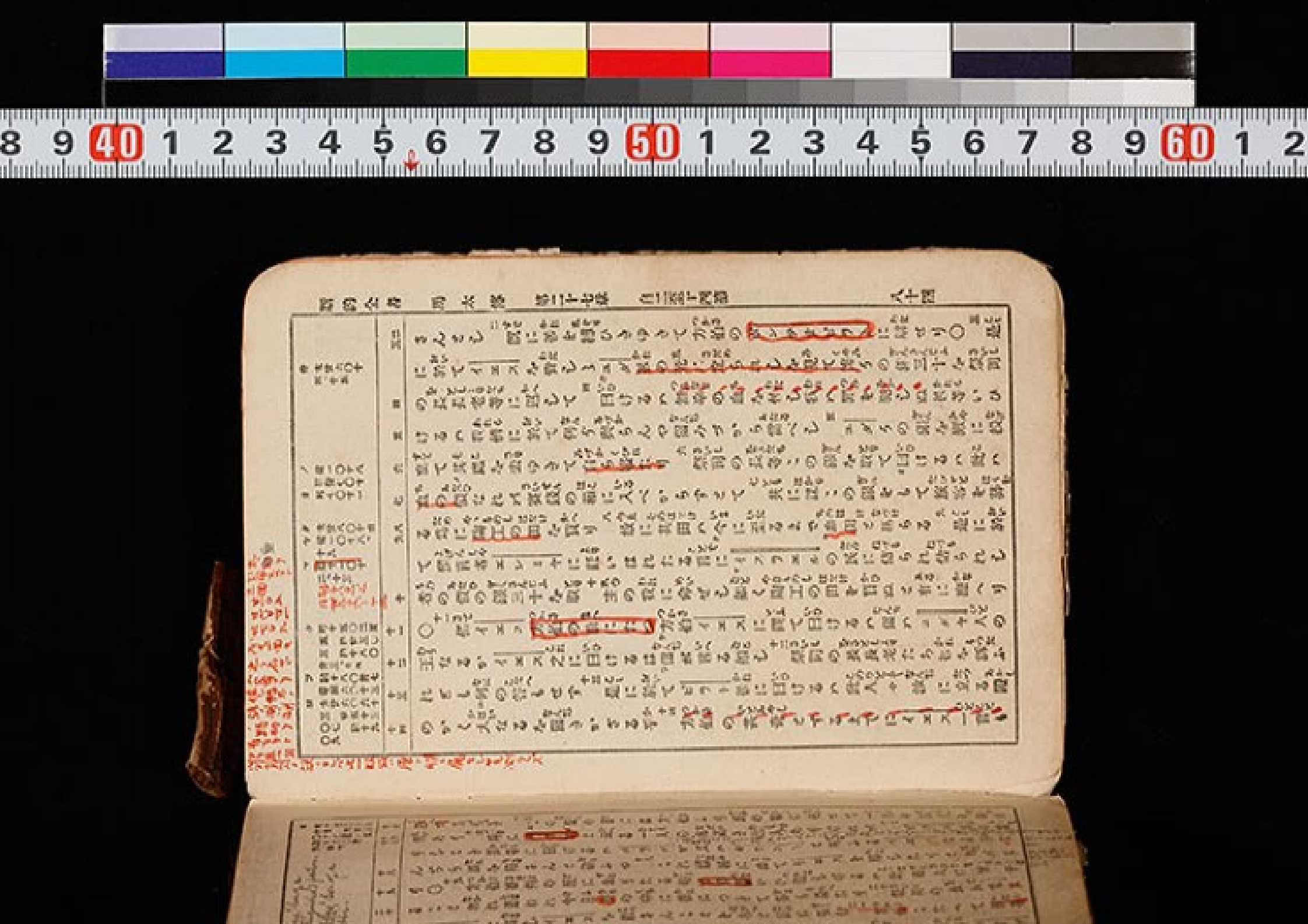


に任せ給へ　四五 來りて又かれらの眠たるを見これ彼等の目眩たる也　四六 彼等
を起れて又ゆき第三度も同じことを祈れり　四七 弟に來りて曰ける
へ今へ眠て休み時へ過し人の子罪人の手に付されん　四八 見よ我渡すべし我
を賣す者近きたり○　四九 猶いへるとき十二の一人なるユダ劍と棒とを持
て賣す者近きたり○　四九 猶いへるとき十二の一人なるユダ劍と棒とを持
たる多の人みと祭司の長と民の長老の所より來る　五〇 イエスを賣す者
かれらに號をなして曰ける我が接吻する者へ夫なり之を執へよ　五一 直に
イエスに來りて主よ安かれと曰て接吻す　五二 イエス彼に曰ける汝友よ何の
故に來るや遂に彼等すゝみ來り手をイエスに搦て執へぬ　五三 イエスと倶に
在し者の一人手をのべて其劍を拔き大祭司の僕を擊て其耳を削おとせり
五四 イエス彼に曰ける汝の劍を故所に收よ凡て劍を取る者へ劍にて亡へし
ひ　五五 我いまだ十二戰隊の天使を我父に請て送ることを能へざるや　五六 然
もし然ば聖書の成ることは如何にか成ん　五七 此時イエス
人々に曰ける汝等劍と棒とを持て盜賊を執ふるが如して我を執にきたる

四四 詩十八〇十一　四五 哀歌二〇八　四六 詩十八〇十一　四七 哀歌二〇八　四八 詩十八〇十一　四九 哀歌二〇八　五〇 詩十八〇十一　五一 哀歌二〇八　五二 詩十八〇十一　五三 詩十八〇十一　五四 詩十八〇十一　五五 哀歌二〇八　五六 詩十八〇十一



けるの民人ことごとく答へて曰ふ彼の血を我らの上と我らの子孫の上に負へ
ト　ピラトバラバを彼らに釋したれども耶蘇を鞭ちて十字架に釣るべしと命じ
タ　ピラトの兵卒ら耶蘇を官衙の庭に牽きて全隊の兵卒を集めて

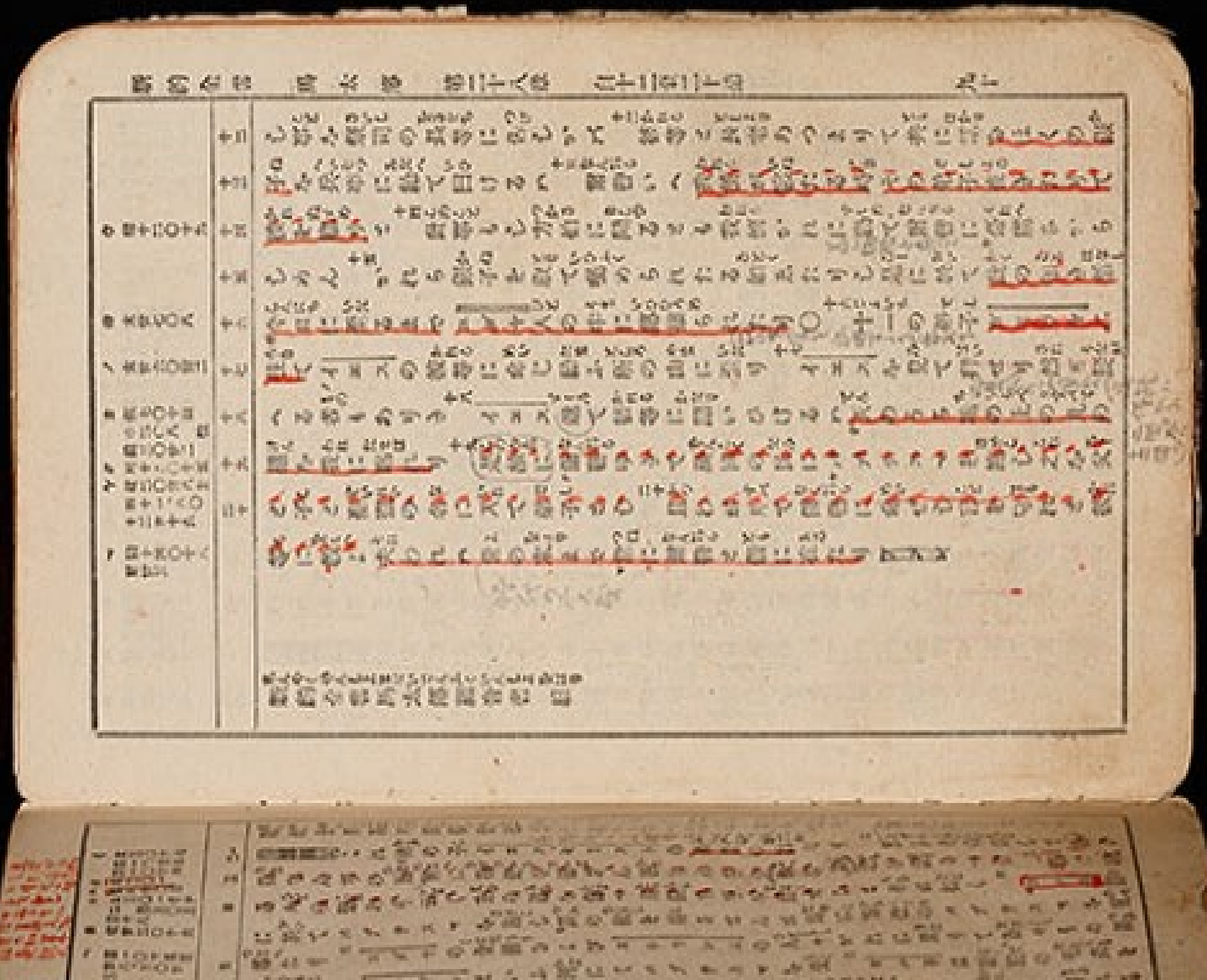


十五　ぱすちやの日には方伯より民の願に任せて一人の囚人を釋
放あり　時に　と云る一人の名高き囚人ありければ
十六　ピラトは民の集
りしとき彼等に曰けるは誰を汝等に釋すべきか　バラバか又はキリストと稱ふるイエスか
十七
十八　んぢら彼を釋さんと願ふや　これ嫉妬に由てイエスを賣したりと知ればな
十九　り○　方伯審判の席に坐りたる時　いひ送りけるは此義人に關て
二十　ること勿れ蓋われ今日夢の中に彼につきて多く苦たり　祭司の長と長老と
二十一　ちバラバを釋しイエスを殺さんことを求と民に教へ　方伯こたへて彼等
に曰けるは二人のうち誰を我ぢんぢらに釋さんことを願ひや彼等バラバ
二十二　と答ふ　ピラトは曰けるは然ばキリストと稱ふるイエスに我なに爲べきや
二十三　彼いふ十字架に釘よと　方伯いひけるは何なにの惡事か行しや彼等ますま
二十四　す喧嘩て十字架に釘よと曰　ピラトその言の益なくして喧嘩の起んと
するを見り水を取て人々の前に手をあらひ曰けるは此義人の血に我は罪
二十五　なし關係みづから之に當れ　民みな答て曰けるは其血は我等と我子

部に置るべし　是に於てパラバを彼等に釋し　イエスを鞭へ分部に委りて釘に
釘んとせり　方伯の兵卒イエスを撫へ分部に委りて紫を其身に
纏め　彼の衣を脱て単色の袍を着せ　棘にて編る冠を載せ　其冠
を右手に持せ且その前に跪づき嘲弄して曰けるハヨダヤ人の王安かれ
また彼に唾し其杖を取て其首を撲り　嘲弄し終りて其袍を脱ぎ其
衣を着せ　十字架に釘んとて彼を曳き行く　ちの出し時シモンと人のシレネいふ者
に遇ければ強て之に其十字架を負せたり○　彼等ゴルゴタ即ち髑髏
と云る處に來り　酒に没薬を和ぜてイエスに飲せんとなすたりしに飲て飲
まざりき　茲てイエスを十字架に釘しのち鬮を拈て其衣を分ち是因
言者の言に被等其に我が衣を分あり我が衣を鬮にすと云しに應へり　其卒
こゝに坐してイエスを守れり　また其頭に註へ此人の王イエスなり
と書して其首の上に置り　其時二人の盜賊イエスと倶に一人へ其右一
人へ其左に十字架に釘らる○　往來の者イエスを罵りかを拈て曰けるハ

四十　殿を壊ちて三日に之を建る者よ自己を救へ若しも神の子ならば十字架
四一　より下よ　祭司の長祭司長老もまたなじく嘲弄して曰けるは　人を救
四二　て己が身を救あたはず　イスラエルの王たらば今十字架より下るべし
四三　我信ずべし　彼は神に依頼めり神しも彼を愛しまば今救ふべし
四四　蓋かれ我は神の子なりと云しゆえ　同に十字架に釘られたる盜賊も同くイ
四五　エスを罵れり○　午の十二時より三時に至るまで全地あまねく暗くなり
四六　三時ごろイエス大聲にエロイ、エロイ、ラマサバクタニと呼りこれを譯
四七　ば我が神なんぞ我を棄たまふぞと云る意　傍らに立たる者のうち或人こ
四八　れを聞て彼はエリヤを呼るなりと曰　その中の一人直に走り海綿を
四九　とり醋を含せ之を葦につけてイエスに飲しむ　餘人曰ける　彼エリヤ來
五十　りて彼を救ふや否試べし○　イエスまた大聲に呼りて氣絶
五一　上より下まで裂て二となり　又地震ふるひ磐裂け　墓開
五二　聖の身まで起りイエスの蘇れる後　墓を出て聖城に入多くの人に

縛れたり○百夫の長と諸にイエスを守たるもの地震および其有し事な
みて甚く懼れ曰へ誠に此は神の子なりと曰り○此處に遠に望たる婦
ありしも彼等トガリラヤよりイエスに從ひ來りしものなり其中に居しまへ
ドレヤのマリヤとヤコブとヨセフの母なるマリヤとゼベダイの子等の母と
なり○日くれてイエスの弟子なるヨセフと稱るアリマタヤの人きた
りてピラトに往イエスの屍を乞しかば ピラトその屍を付せと命す
モフ屍を取て潔き麻布に包み之を墓に置たる己が新しき墓にるき
る石を墓の門に轉して去 マグダラのマリヤと他のマリヤと墓に對て坐
し其處に居り○明日の祭日の翌日祭司の長とパリサイの人等ピラトの所に來
集り曰けるへ 主よ我思惟せり彼の惑いまだ在しとき三日目のち
らんと言し 是故に命じて三日に至まで墓を固守しめよ恐くへ其弟子等
きたりて之を竊み死より起りたりと民に語んかの後の惑へ前よりも甚
るべし ピラト彼等に曰けるへ守兵へ汝等にあり往て汝のまゝに能なし

め　是に於て彼等ゆきて石に封印し守兵をして墓を固めもたり

第廿八章　安息日過てのち七日の首の日曉時にマリヤのマリヤ來りて墓を觀んとて來りしに　二見よ大なる地震ありて主の使天より降り墓の門より石を轉し其上に坐す　三その容貌の閃電のごとく其衣雪のごとく白し　四守兵われを懼れ戰きて死たる者の如くなりぬ　五天使こたへて婦に曰けるは懼るな汝等十字架に釘られしイエスを尋ることを知　六彼は此に在ず其言る如く起りたり來きたりて主の臥れし處を見よ　七且ゆきて其弟子に告よ彼は死より起り來りて汝等に先ガリラヤに往り彼處に於て汝等かれを見べし我これを汝等に告ぬ　八婦ながらも其速く喜びて恐るるなり其弟子に告んとて往き　九イエス彼等に遇て安かれと曰給ひければ婦ども來て其足を抱て拜しぬ　十イエス彼等に曰けるは懼るな往て我兄弟にガリラヤに往へと告よ彼處にて我を見べし　十一婦の往しのち守兵のうち或者ども城に至り凡て省